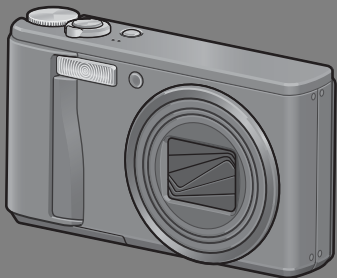
RICOH

RICOH R10

使用説明書　カメラ編

**本製品のシリアル番号は、
本体底面に記載されています。**

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社Webサイトからお願い致します。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、Eメール（ファームウェア等のサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする <電波障害自主規制について> この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が差し迫って発生する可能性がある内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例

❗記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。
● 表示例
⃠意味：接触禁止　⃠意味：分解禁止

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠危険

● カメラを分解、修理、改造しないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険があります。

● バッテリーを分解、改造、直接ハンダ付けしたりしないでください。

● バッテリーを火の中に投入したり、加熱したり、火のそばや車の中など温度が高くなる場所で使用したり、放置しないでください。また、水や海水などにつけたり、濡らさないでください。

● バッテリーに釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたり、強い衝撃を与えないでください。

● 外傷、変形の著しいバッテリーは使用しないでください。

⚠警告

● 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態がみられる場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーを取り外してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

● 万一、機械内部に異物（金属、水、液体など）が入った場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーとメモリーカードを取り出してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

● 画像モニターが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一、次の状況になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。
- 皮膚に付着した場合は、付着物を拭き取り、水を流しせっけんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分洗浄した後、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を与えて吐き出させた後、医師の手当てを受けてください。

● バッテリーの液漏れ、発熱、発火、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
- この製品で指定しているバッテリー以外は、使用しないでください。
- 金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。
- 電子レンジや高圧容器に入れないでください。
- 使用中や充電中、液漏れしたり、異臭がする、変色するなどの異常がある場合は、ただちにカメラやバッテリーチャージャーから取り外し、火気から遠ざけてください。

● バッテリーの充電による火災、感電、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
- 表示された電源電圧以外の電圧を使用しないでください。また、タコ足配線や延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。また、電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグをもって抜いてください。
- 布などに包んで使用しないでください。

● この製品で使用しているバッテリーや SD メモリーカードを誤って飲み込むことがないよう、特に幼児・子供の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、人体に有害です。ただちに医師と相談してください。

● この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。幼児・子供には「安全上のご注意」や「使用上のご注意」の内容が理解できずに事故発生の原因となります。

● 落下や損傷により内部が露出したときは、内部には手を触れないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険性があります。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーを取り出してください。破損したときは、お買い上げの店またはリコー修理受付センターに連絡してください。

● 台所などの湯煙や湿気の当たるところ、水気のあるところでは使用しないでください。火災や感電の原因となります。

● 引火性ガスやガソリン、ベンジン、シンナー等の近くで使用しないでください。爆発や火災、火傷の原因となります。
● 航空機の中など、使用が制限または禁止されている場所では使用しないでください。事故等の原因となります。

● 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。
● 家庭用コンセントをご利用になるときは、必ず専用の AC アダプターをご利用ください。指定以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

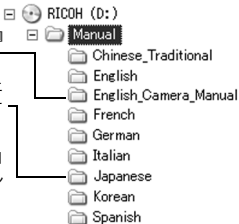
● 海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などにバッテリーチャージャーやACアダプターを接続しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠注意

● バッテリーから漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損したバッテリーに触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。(せっけんは使用しないでください)
また、液漏れが起こったときは、液をよくふき取ってから、新しいバッテリーを入れてください。

● 電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。火災の原因となります。

● カメラを濡らさないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。

● 車両（自転車、車、列車等）の運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。交通事故等の原因となります。

別売り品について	別売り品をお使いになるときには、各製品の使用説明書を操作の前に必ずお読みください。

使用説明書の構成について

RICOH R10には、次の2種類の使用説明書が付属しています。

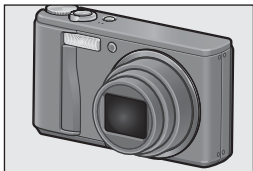
<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>『使用説明書（カメラ編）』（本書）</td></tr>
<tr><td>カメラの使いかたや機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。
※英語版の『使用説明書（カメラ編）』は、PDFファイルとして、付属のCD-ROMに収録されています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）</td></tr>
<tr><td>『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属CD-ROM内の以下のフォルダに収録されています。
カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。
英語版の『使用説明書（カメラ編）』（PDFファイル）
各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。
使用説明書をハードディスクにコピーするには、それぞれのフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。
RICOH (D:)
Manual
Chinese_Traditional
English
English_Camera_Manual
French
German
Italian
Japanese
Korean
Spanish</td></tr>
</table>

本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェアIrodio Photo & Video Studioが付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studioについてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

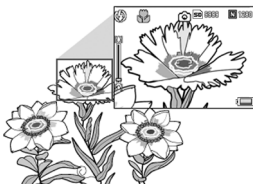
株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター
TEL：06-6633-3900
FAX：06-6633-2992
〒556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日
10：00～17：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで、Irodio Photo & Video Studioの最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/

このカメラでできること

※本書内のイラストは、実物とは異なる場合があります。

7.1倍高倍率ワイドズームレンズを搭載

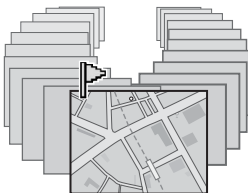
薄型コンパクトボディに、28〜200mm相当（*）の広い撮影領域をカバーする光学7.1倍ワイドズームレンズを搭載。室内から風景まで、さまざまな撮影シーンに対応できます。
（*）35mm判カメラ換算値です。

手ブレ補正機能で、手ブレを抑えた安心撮影（P.103）

手ブレ補正機能を装備。室内や夜景などの手ブレしやすい場面でも、手ブレを抑えた撮影ができます。

1cmマクロ対応（P.37）
望遠時25cm、広角時20cm 対応近接フラッシュ（P.39）

被写体に広角端1cm、望遠端25cm（レンズ先端より）まで近づいて撮影可能な接写機能を搭載。
フラッシュは広角端20cm、望遠端25cmの近さまで対応。光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。

画像の水平出しを補助する電子水準器機能搭載（P.60）

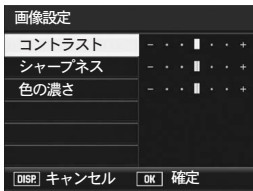
風景や建物の撮影時など、水平のとれた画像を撮影したい場合に便利な電子水準器機能を搭載。画像モニターに表示される水平インジケーターと水準器音で、画像の水平状態を確認することができます。

特定の画像をすぐに表示できる画像クリップ機能（P.118）

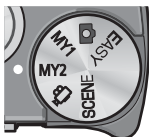
旅先でメモとして撮影した電車の時刻表や地図など、すぐに呼び出したいファイルを画像クリップ機能で登録しておくと、Fn（ファンクション）ボタンですぐに表示することができます。

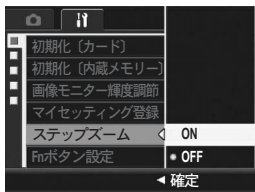
初心者にも安心なイージー撮影モード（P.41）

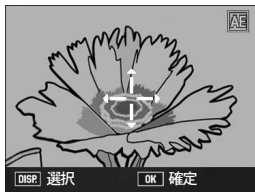
［画質・サイズ］など、必要最低限の設定のみ可能なイージー撮影モードを搭載。初心者の方でも誤操作の心配が少なく、安心して撮影できます。家族とカメラを共有する場合や、旅先で他の人に撮影してもらう場合などにも便利です。

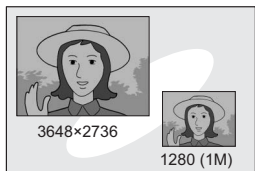
被写体の顔を自動的に認識して撮影するフェイスモード（P.43）

被写体の顔に自動的にピントを合わせ、露出、ホワイトバランスを最適に調整して撮影することができます。

多彩な画像設定機能（P.89）

白黒、セピアの他、明暗差のある画像でもカメラが自動的に階調を補正して記録する［自動レベル］や、コントラスト、シャープネス、色の濃さを自分好みに調整できる［カスタム設定］などを選択できます。

簡単に自分好みの撮影ができるマイセッティングモード搭載（P.42）

オリジナルの設定を2種類登録することができます。モードダイヤルをMY1/MY2に合わせると、登録したオリジナルの設定で撮影することができます。

ズーム速度を変更できるズームレバーおよびステップズーム機能を搭載（P.36、157）

ズームレバーの操作でズーム速度を2段階に変化させたり、ステップズーム機能で焦点距離を固定することができます。

好きな場所にAF、AEをロックできるAF/AEターゲット移動機能（P.67、70）

撮影時にカメラを動かすことなく、AF、AEのターゲットをボタン操作だけで移動し、ロックすることができます。

2種類の画像サイズで撮影するデュアルサイズ記録機能（P.98）

1度の撮影でオリジナルサイズの静止画と画像サイズの小さいサブファイル2枚を同時に記録することができます。

ゆがみを簡単に補正する斜め補正モード搭載（P.44）

斜めから撮影した四角い被写体を、正面から撮影したように補正する「斜め補正モード」を搭載。簡単なボタン操作で補正ができ、掲示板や展示パネル、名刺など、さまざまな被写体の撮影に活躍します。

撮影後の画像をカメラで簡単補正（P.122、124、127）

撮影した静止画の一部分を切り取ったり（トリミング）、明度の自動調整（レベル補正）や色合いの調整（ホワイトバランス補正）をすることができます。補正後の画像は新たなファイルとして記録されます。

もくじ

基本編 13

はじめてお使いのときは必ずお読みください

応用編 63

目的に応じて必要なときにお読みください

1 いろいろな撮影 64

2　動画を撮影・再生する　112

3　いろいろな再生　116

4 ダイレクトプリントで印刷する 142

5 カメラの設定を変える 149

6　画像をパソコンに取り込む　180

7　付録　197

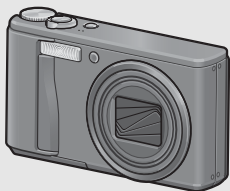
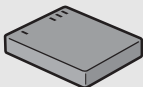
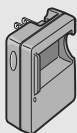
基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。
※同梱品の形状は、実際とは異なる場合があります。

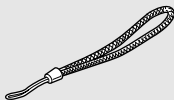
RICOH R10

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

リチャージャブルバッテリー

バッテリーチャージャー

USBケーブル(mini Bタイプ)

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。

AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。

ハンドストラップ

使用説明書（カメラ編）

（本書）

CD-ROM（☞P.180）

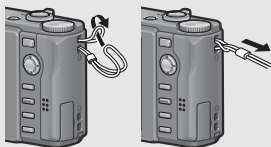
☞P.180

ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。

Macintoshでは、CD-ROMに含まれているソフトウェアを使用することはできませんが、『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示することは可能です（パソコンにAcrobatがインストールされている場合のみ）。

メモ

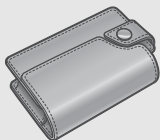
ハンドストラップのつけかた

ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。

別売り品について

ACアダプター（AC-4g）

家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。

ソフトケース（SC-80）

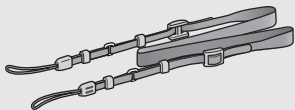
本カメラのカメラケースです。

ネックストラップ（ST-2）

「RICOH」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。

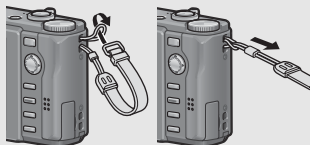
リチャージャブルバッテリー（DB-70）

本カメラで使用できる充電池です。

バッテリーチャージャー（BJ-7）

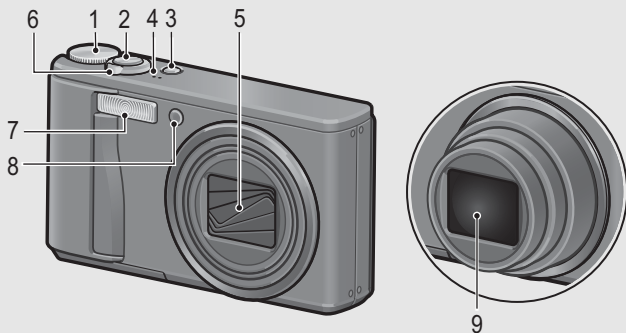
リチャージャブルバッテリー（DB-70）を充電するための充電器です。

メモ

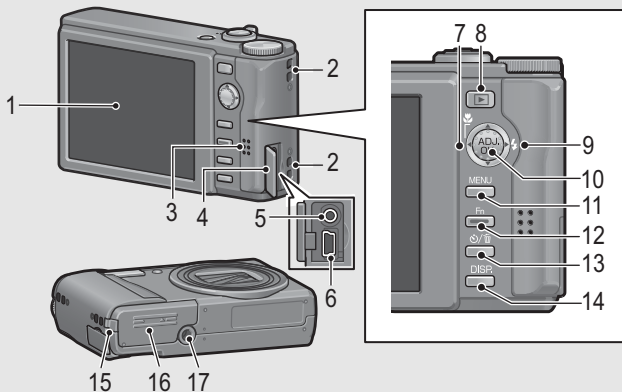
ネックストラップのつけかた

ネックストラップの先端を結合部より外し、図のように取り付けます。

- 別売り品についての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc/）をご覧ください。

カメラの各部の名称

カメラ本体

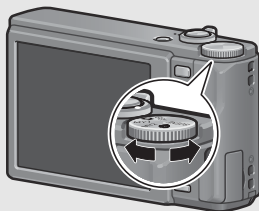
前面

	名称	参照先
1	モードダイヤル	P.19、34、41、42、43、112
2	シャッターボタン	P.32
3	POWER（電源）ボタン	P.30
4	マイク	P.112
5	レンズカバー	−
6	ズームレバー [♠]（望遠）／[♠]（広角） Q（拡大表示）／▦（サムネイル表示）	P.36、52、53
7	フラッシュ発光部	P.39
8	AF補助光／セルフタイマーランプ	P.49、169
9	レンズ	−

背面

	名称	参照先
1	画像モニター	P.20
2	ストラップ取付け部	P.15
3	スピーカー	P.115
4	端子カバー	P.140、143、191、192、195
5	AV出力端子	P.140
6	USB端子	P.143、191、192、195
7	🌷（マクロ）	P.37
8	▶（再生）ボタン	P.50
9	⚡（フラッシュ）	P.39
10	ADJ./OKボタン(※)	P.64
11	MENUボタン	P.44、77、117、150
12	Fn（ファンクション）ボタン	P.69
13	⏲（セルフタイマー）／🗑（削除）ボタン	P.54、49
14	DISP.ボタン	P.58、60
15	電源（DC入力）ケーブルカバー	P.212
16	バッテリー／カードカバー	P.28、212
17	三脚ネジ穴	P.207

(※) 本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側（または🌷⚡側）に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

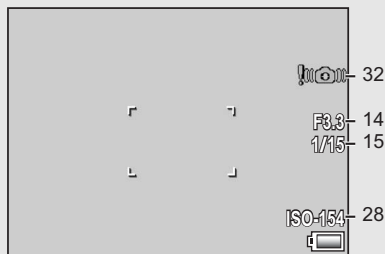
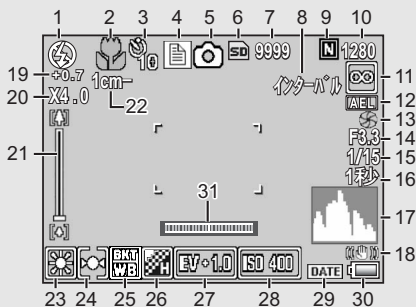
モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

1 モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせる

モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き	参照先
📷	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。	P.34
EASY	イージー撮影モード	複雑な設定をすることなく、簡単な操作で撮影することができます。設定を変更できる撮影機能は限られます。	P.41
MY1、**MY2**	マイセッティングモード	[マイセッティング登録] で設定した内容で撮影します。	P.42
🎥	動画モード	動画を撮影できます。	P.112
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。	P.43

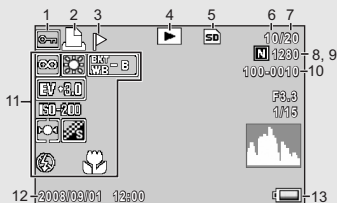
画像モニターの表示

撮影するときの画面

動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュのモード	P.39	20	デジタルズームの倍率、オートリサイズズーム	P.36、P.165
2	マクロ撮影	P.37			
3	セルフタイマー	P.49			
4	シーンモード／連写	P.43 P.85	21	ズームバー	P.36
			22	マクロ最短撮影距離	P.172
5	撮影モードの種類	P.19	23	ホワイトバランスモード、逆光補正	P.107 P.73
6	記録先	P.25			
7	残り記録枚数	P.209	24	測光モード	P.84
8	インターバル撮影	P.101	25	オートブラケット	P.92、93、95
9	画質	P.79			
10	画像サイズ	P.79	26	画像設定	P.89
11	フォーカスモード	P.81	27	露出補正	P.106
12	AEロック	P.72	28	ISO感度	P.109
13	最小絞り固定	P.100	29	日付入れ撮影	P.105
14	絞り値	P.206	30	電池マーク	P.23
15	シャッタースピード	P.104	31	水平インジケーター	P.61
16	長時間露光	P.97	32	手ブレ注意マーク	P.33
17	ヒストグラム表示	P.62	33	フレームレート	P.113
18	手ブレ補正	P.103	34	残り記録時間	P.209
19	フラッシュ調光補正	P.91	35	記録時間	P.209

メモ--

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面

静止画モード　　　　動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	プロテクト	P.131	9	画像サイズ	P.79
2	DPOF	P.136	10	ファイル番号	ー
3	画像クリップ〔設定〕	P.118	11	撮影時（記録時）の設定	ー
4	モードの種類	ー	12	撮影した日付	P.177
5	再生元	P.51	13	電池マーク	P.23
6	再生ファイル数	ー	14	記録時間または経過時間	ー
7	総ファイル数	ー	15	インジケーター	ー
8	画質	P.79			

メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

電池の残量表示

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
緑色	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の容量が減りはじめました。充電をお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電してください。

注意--

ACアダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

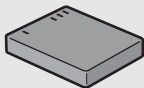
準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ

- すでに電源をオンにした場合は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.30をご覧ください。

電池について

本カメラでは、専用のリチウムイオン電池「リチャージャブルバッテリー DB-70」(付属)を使用します。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

撮影可能枚数

撮影可能枚数(電池の持続)の目安:約300枚

※[画像モニター節電](☞P.171)が[ON]のとき

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。(温度23°C、画像モニターオン、30秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影するごとに電源をオフ/オンを繰り返し)
- [画像モニター節電]が[OFF]の場合は、約270枚となります。
- シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます。(☞P.58)
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間(枚数)が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をおすすめします。

注意

- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品(DB-70)をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。

SDメモリーカード（市販）について

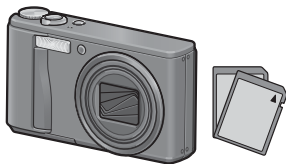
記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーまたはSDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約54MBです。
静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。

初期化について

新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。また、[使用できないカードです。］等のエラーメッセージが表示されたり､パソコンや他のデジタルカメラで使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。（☞P.152）

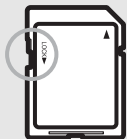
記録先について

SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

本体のみのとき	SDメモリーカードが セットされているとき
内蔵メモリーに記録	SDメモリーカードに記録

注意

- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。
大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。
なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。

メモ

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.51をご覧ください。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、SDメモリーカードの容量によって異なります。（☞P.209）
- 内蔵メモリーに記録された画像を、SDメモリーカードにコピーすることができます。（☞P.135）

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

注意

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

- 充電には専用バッテリーチャージャー(BJ-7)をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

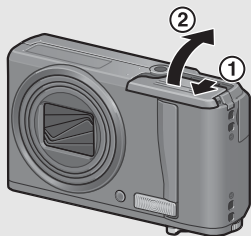
充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーの端子汚れ、またはバッテリーチャージャー／バッテリーの異常（バッテリーチャージャーをコンセントから抜いてバッテリーを取り外し、乾いた布や綿棒でバッテリーチャージャーの端子をふいてから再度セットしてください。それでも充電ランプが点滅する場合は、バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常が考えられます。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外してください。）

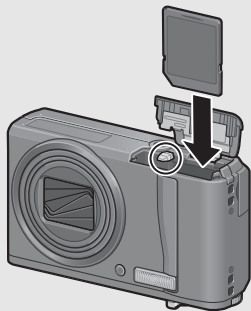
- バッテリーの充電時間の目安は、以下のとおりです。バッテリーの残量により充電時間は異なります。

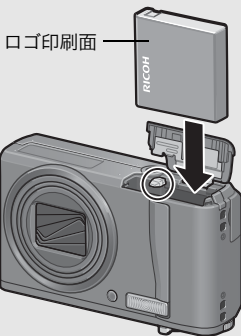
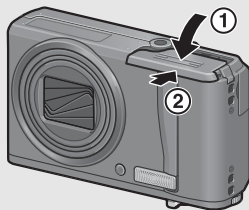
リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-70	約100分（25°C）

リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをセットする

リチャージャブルバッテリーを充電したら、リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをカメラにセットします。
すでに電源をオンにした場合は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 バッテリー／カードカバーをスライドさせて開ける

2 SDメモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。

3 リチャージャブルバッテリーを挿入する

• セットされると、図のツメでロックされます。

4 バッテリー／カードカバーを閉じて、スライドさせる

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには

バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。リチャージャブルバッテリーをロックしているツメをずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

SDメモリーカードを取り出すときには

バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。SDメモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとSDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

注意

長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

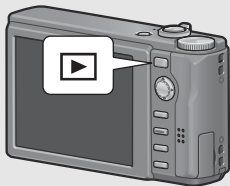
電源をオン／オフする

電源をオンにする

1 POWER（電源）ボタンを押す

- 起動音が鳴り、画像モニターが点灯します。

再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを長押しすると、再生モードの状態で電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。
- ▶ ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度▶ボタンを押すと、記録モードになります。

電源をオフにする

1 POWERボタンを押す

注意

フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかる場合があります。

オートパワーオフについて

- 設定した時間内にカメラのボタンを押さなかった場合は、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。（☞P.170）

画像モニター節電モードについて

セットアップメニューで［画像モニター節電］を［ON］に設定する（☞P.171）と、画像モニターを点灯した状態で約5秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターが暗くなります。その場合、カメラを動かすか、いずれかのボタン押すと元に戻ります。

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、年・月・日・時・分を設定する

出荷時の設定

- ▲▼で数値を変更し、◀▶で項目を移動します。
- DISP.ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

2 [書式] で日時の書式を選ぶ

- ▲▼で書式を選択します。

3 画面の表示を確認し、ADJ./OKボタンを押す

- 日時が設定されます。

メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。(☞P.177)
- 日時を入れて撮影することができます。(☞P.105)

撮影する

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

カメラの構えかた

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける

2 シャッターボタンに指を当てる

注意

- 指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。
- レンズユニットを手で持たないように注意してください。ズーム、ピント合わせが正常に動作しません。

手ブレを防ぐには --

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画を鮮明に撮影できません（手ブレ）。
次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

- フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
- ズームを使って撮る
- 長時間露光を設定して撮る（☞P.97）

画像モニターに 手ブレマーク が表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

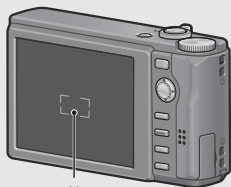
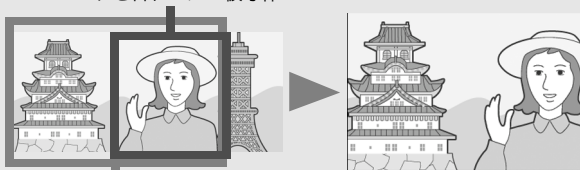
- 手ブレ補正機能を使う（☞P.103）
- フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.39）
- ISO感度を上げる（☞P.109）
- セルフタイマーを使う（☞P.49）

オート撮影モードで撮る

モードダイヤルを📷に合わせて、オート撮影モードで撮影してみましょう。
シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。
被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを📷に合わせる

2 画像モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出とホワイトバランスが固定されます。
- ピントが合わない場合は、画像モニター中央部に赤い枠が表示されます。
- 最大9点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

• 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

ピント合わせについて --

ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色で確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色
ピント合わせ前	白
ピントが合ったとき	緑
ピントが合わなかったとき	赤

次のような被写体は、ピントを合わせられないことや、枠の色が緑になっていてもピントが合っていないことがあります。

- 横線だけで、凹凸のないもの
- 動きの速いもの
- 暗いところのもの
- 強い逆光および反射光があるもの
- 蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離の違う被写体にピントを固定するなどしてから撮影してください。

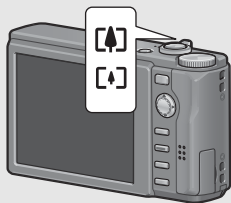
メモ --

• 手ブレを防ぐために、シャッターボタンは静かに押しましょう。
• 手ブレマークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。また、手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレを起きにくくすることができます。(☞P.103)
• フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。

ズームを使って撮る

ズームレバーを[T]（望遠）側に回すと、被写体を大きく写すことができます。
ズームレバーを[W]（広角）側に回すと、広い範囲を写すことができます。

1 撮影できる状態で、ズームレバーを[T]側や[W]側に回す

- 画像モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。
- ズームには高速ズームと低速ズームがあります。ズームレバーを[T]側に少し回すと、低速でズームが動作します。さらに回すと、高速でズームが動作します。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

デジタルズームを使う --

デジタルズームを行うと、通常の拡大倍率（最大7.1倍）より、さらに被写体を拡大できます（静止画：最大4.8倍、動画：最大4.0倍まで）。
デジタルズームを使う場合は、ズームバー表示が[T]側の端まできたらいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを[T]側に回し続けます。
［画質・サイズ］を3648×2736に設定している場合は、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択することもできます。（☞P.165）

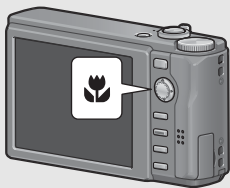
メモ --

ズームの焦点距離を7段階に固定することができます。（☞P.157）

接写で撮る（マクロ撮影）

マクロ撮影機能を使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます。
最短約1cm（レンズ先端より）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 ADJ./OKボタンを🌷(マクロ)側に押す

- 画像モニター中央に一瞬🌷が大きく表示され消えた後、上部に🌷が表示されます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

- マクロモードを解除するには、ADJ./OKボタンをもう一度🌷側に押します。

 メモ

- マクロ撮影時は、ズームの位置によって最短撮影距離が変わりますが、［マクロ最短撮影距離］を［表示］に設定すると、最短撮影距離を画像モニターに表示することができます。（☞P.172）
  ズームを使用しているときの最短撮影距離と撮影範囲は以下のとおりです。

広角時	約1cm （レンズ先端より）	撮影範囲：約28×21mm
望遠時	約25cm （レンズ先端より）	撮影範囲：約63×47mm （デジタルズーム未使用時）
		撮影範囲：約13.1×9.8mm （デジタルズーム4.8倍時）

- マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの［ズームマクロ］を使います。（☞P.43）

• シーンモードでのマクロ撮影は、以下のとおりです。

シーンモード	マクロ撮影
ポートレート	不可
フェイス	不可
スポーツ	不可
遠景	不可
夜景	不可
夜景ポートレート	不可
高感度	使用可
ズームマクロ	常時マクロ撮影
斜め補正	使用可
文字	使用可

フラッシュを使って撮る

撮影する状況によって、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、［AUTO］に設定されています。

フラッシュの光が届く範囲

※ISO感度（☞P.109）が［AUTO］または［ISO 400］の場合

広角時	約20cm～3.0m（レンズ先端より）
望遠時	約25cm～2.0m（レンズ先端より）

フラッシュモードの種類

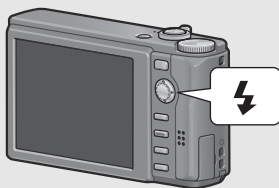
	発光禁止	フラッシュを発光しません。
	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光（*）	フラッシュを必ず発光します。
	スローシンクロ（*）	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

（*）イージー撮影モードのときは、選択できません。

1 ADJ./OKボタンを⚡（フラッシュ）側に押す

- 画像モニターにフラッシュモード一覧が表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、フラッシュモードを選ぶ

- 画像モニター左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中は、画像モニター左上のフラッシュモードのマークが点滅します。充電が完了するとマークが点灯し、撮影が可能になります。

メモ

- ADJ./OKボタンを⚡（フラッシュ）側に押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットでは、発光禁止になります。
- フラッシュの光量は、調整することができます。（☞P.91）
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。
- シーンモードでのフラッシュ撮影は、以下のとおりです。

シーンモード	フラッシュ
ポートレート	初期値：[発光禁止]
フェイス	初期値：[発光禁止]
スポーツ	初期値：[発光禁止]
遠景	[発光禁止] に固定
夜景	[発光禁止]、[AUTO]、[強制発光]、[スローシンクロ] のみ選択可 初期値：[AUTO]
夜景ポートレート	[赤目軽減]、[スローシンクロ] のみ選択可 初期値：[スローシンクロ]
高感度	初期値：[発光禁止]
ズームマクロ	初期値：[発光禁止]
斜め補正	初期値：[発光禁止]
文字	初期値：[発光禁止]

イージー撮影モードで撮る

モードダイヤルをEASYに合わせると、設定変更が可能な撮影機能が限られ、複雑な設定をすることなく簡単な操作で撮影できます。
初心者の方でも誤操作の心配が少なく、安心して撮影できます。家族とカメラを共有する場合や、旅先で他の人に撮影してもらう場合などにも便利です。

1 モードダイヤルをEASYに合わせる

2 シャッターボタンを押して撮影する

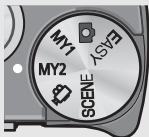
メモ

- 撮影設定メニューは、［画質・サイズ］のみ設定できます。操作方法は、P.79を参照してください。その他の撮影設定メニュー項目は初期設定値（☞P.210）に固定されます。ただし、［ISO感度］は［AUTO-HI］に固定されます。
- 撮影モードでモードダイヤルをEASYに合わせている場合、セットアップメニューは、他の撮影モード時とは項目数、表示順が異なります。各設定内容は、他の撮影モード時と同じです。
- 他の撮影モードでフラッシュ、マクロ、セルフタイマーの設定を変更しても、イージー撮影モードに切り替えると、初期設定値に戻ります。

マイセッティングモードで撮る

モードダイヤルをMY1、MY2に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1、MY2の設定は、セットアップメニューの［マイセッティング登録］で登録します。（☞P.155）

1 モードダイヤルをMY1/MY2に合わせる

- MY1に合わせると、［マイセッティング登録］の［MY1］の設定になります。
- MY2に合わせると、［マイセッティング登録］の［MY2］の設定になります。

2 シャッターボタンを押して撮影する

メモ

マイセッティングモード時でも、カメラの設定は変更することができます。設定変更後、モードを切り替えるか電源をオフにすると、もとのMY1、MY2の設定に戻ります。

撮影シーンに合わせて撮る

シーンモードを使うと、10種類の静止画モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

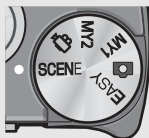
シーンモードの種類

モード	説明
ポートレート	人物を撮るときに使います。
フェイス	被写体の顔を自動的に認識し、ピント、露出、ホワイトバランスを調整します。 詳しい操作手順はP.46で説明しています。
スポーツ	動きのあるものを撮るときに使います。
遠景	緑や青空の多い風景を撮るときに使います。
夜景	夜景を撮るときに使います。 夜景モードでは、以下の条件がそろったときにフラッシュを発光します。 • フラッシュ設定が［AUTO］のとき • 周囲が暗くフラッシュが必要と判断したとき • 近い距離に人物などの被写体があるとき
夜景ポートレート	夜景を背景にして人物を撮るときに使います。 フラッシュは自動的に発光します。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意して撮影してください。
高感度	薄暗い場所で撮るときに使います。画像モニターも見やすくなります。
ズームマクロ	ズーム位置を自動的に最適化し、通常のマクロ撮影よりも被写体をより大きく撮影できます。 光学ズームは使用できません。 詳しい操作手順はP.48で説明しています。

 斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。 詳しい操作手順はP.47で説明しています。 斜め補正モードでは、［画質・サイズ］は、［N1280］、［N640］から選択できます。（☞P.79）
 文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 文字の濃淡を変えることもできます。（☞P.66） 画像サイズは、3648×2736、2048×1536から選択できます。（☞P.79）

メモ

シーンモード時の撮影設定メニューについては、P.76を参照してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 シーンモードを変更したい場合は、MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、シーンモードを選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

シーンモードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定を変更したい場合には --

撮影モードでMENUボタンを押し、その後ADJ./OKボタンを▲側に1回または2回押して［MODE］タブを選択してください。その後ADJ./OKボタンを▶側に1回押すと撮影設定メニュー、2回押すとセットアップメニューが表示されます。各項目の設定方法は、P.77、P.150を参照してください。

● 通常の撮影モードに戻るには

1 モードダイヤルを📷に合わせる

● フェイスモードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、[フェイス] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 構図を決める

- 顔を認識すると、認識した大きさの枠が青で表示されます。
- 最大4枠まで表示されます。

6 シャッターボタンを半押しする

- 複数の顔がある場合でも最適になるようピント合わせが行われます。ピントが合うと、顔認識中の枠が緑で表示されます。ピントが合わないと、顔認識中の枠が消えます。
- 露出とホワイトバランスが固定されます。

7 シャッターボタンをそのまま静かに押し切る

注意

以下のような場合は顔認識できないことがあります。
- 横顔、傾けている顔、動いている顔の場合
- カメラを傾けたり、逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合
- 顔の一部が隠れている場合
- 周囲が暗く、顔がよく見えない場合
- 被写体から遠すぎる場合（グリッドガイド表示☞P.58にしたときに、画像モニターに写る顔の高さが、グリッドガイド1マスの高さ以上になるようにしてください）
- 顔が画像モニターの端にある場合

●斜め補正モードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、[斜め補正]を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、ADJ./OKボタンを▶側に押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、ADJ./OKボタンを▲側に押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意

[斜め補正]に設定した場合は、以下の点にご注意ください。
- 被写体ができるだけ大きくなるように、被写体の全体が画像モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ピンぼけの画像
  - 被写体の4辺がはっきり見えない
  - 被写体と背景の区別がつきにくい
  - 背景が複雑な構図
- 変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。

メモ

撮影済みの静止画を斜め補正することもできます。(☞P.129)

●ズームマクロで撮影するには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、[ズームマクロ]を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 ズームレバーを[望遠]（望遠）側や[広角]（広角）側に押す

- 画像モニターに倍率が表示されます。

6 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

7 シャッターボタンを押し切る

注意--

- ズームマクロを使用しているときは、次の距離までのマクロ撮影ができます。

約1cm（レンズ先端より）	撮影範囲：約22.6×17mm（デジタルズーム未使用時）
	撮影範囲：約4.7×3.5mm（デジタルズーム4.8倍時）

- [画質・サイズ]を3648×2736に設定している場合は、[デジタルズーム切替]で[オートリサイズ]を選択すると、オートリサイズズームが有効になります。（☞P.165）

⏲セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒、2秒、[カスタムセルフ]から選択できます。[カスタムセルフ]に設定すると、間隔をあけて複数枚撮影することができます。[カスタムセルフ]の撮影間隔と撮影枚数は、撮影設定メニューの[カスタムセルフ]で設定しておきます。(☞P.99)

1 撮影できる状態で、⏲(セルフタイマー)ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある[10]は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
- ⏲ボタンを1回押すごとに、10秒→2秒→カスタムセルフ→セルフタイマー解除→10秒→2秒→・・・と切り替わります。

2 シャッターボタンを押す

- 10秒の場合は、AF補助光/セルフタイマーランプが8秒間点灯し、最後に2秒間点滅して撮影されます。
- [カスタムセルフ]の場合は、AF補助光/セルフタイマーランプが撮影の直前に毎回2秒間点滅し、設定した撮影間隔で撮影されます。フォーカスの位置は、1回目の撮影で固定されます。
- [カスタムセルフ]の場合、撮影を途中で中止したいときはMENUボタンを押してください。

メモ

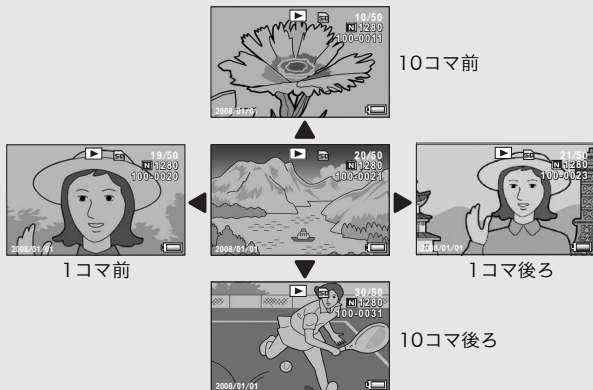
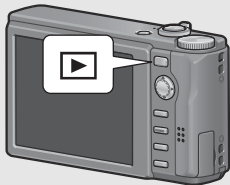
- 撮影が完了した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、⏲ボタンを押して、[セルフ オフ]に切り替えます。
- 2秒の場合、AF補助光/セルフタイマーランプは点灯、点滅しません。
- イージー撮影モードでは、10秒のみ選択できます。⏲ボタンを押すと、10秒→セルフタイマー解除→10秒・・・と切り替わります。
- セルフタイマーを設定すると、[インターバル撮影]の設定は無効になります。

再生する

撮った静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 再生モードに切り替わり、最後に撮ったファイルが表示されます。
- ADJ./OKボタンを◀▶側に押すと、順番にファイルを見ることができます。
- ▲側に押すと、10コマ前のファイルが表示されます。10コマ未満の場合は、先頭のファイルが表示されます。
- ▼側に押すと、10コマ後ろのファイルが表示されます。10コマ未満の場合は、最後のファイルが表示されます。
- 再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度▶ボタンを押します。

メモ

頻繁に再生したいファイルを、再生設定メニューの［画像クリップ〔設定〕］で登録しておくと、再生時にすぐに表示することができます。(☞P.118)

撮影モードでの画像確認について

撮影モードでは、静止画を撮影した直後に、確認のために撮影した画像が表示されます。確認時間はセットアップメニューの［画像確認時間］で変更することができます（☞P.164)。

［画像確認時間］を［HOLD］に設定すると、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続けます。[HOLD］に設定している場合は、確認中の画像を拡大表示したり削除したりすることもできます。(☞P.53、54)

再生モードでの電源オンについて

電源がオフの状態で▶（再生）ボタンを長押しすると、電源がオンになり、再生モードの状態で起動します。

▶ボタンで電源をオンにした場合も、もう一度▶ボタンを押すと、撮影モードになります。

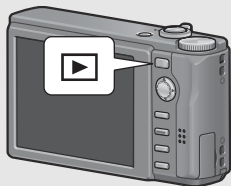
再生元について

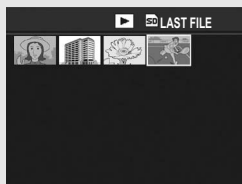
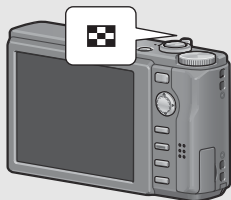
SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードから再生されます。

一覧表示する（サムネイル表示）

再生画面は一覧表示（20枚ずつ）することができます。一覧表示では、ファイルを選択して、そのファイルを1枚表示にしたり、削除することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ズームレバーを ▦（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

1枚表示するには

1. ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、ファイルを選ぶ
2. ズームレバーを🔍（拡大表示）側に回す

静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
640×480	3.4倍
1280×960	6.7倍
上記以外の画像サイズ	16倍

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、拡大表示したい静止画を表示する

3 ズームレバーを🔍（拡大表示）側に回す

- 静止画が拡大されます。

画像拡大時の動作	
ズームレバー（🔍側）	静止画を拡大表示します。
ズームレバー（▦側）	拡大表示された静止画を元の大きさに戻します。
ADJ./OKボタン	画像サイズが2048×1536以上の場合： 8倍未満の拡大表示中にADJ./OKボタンを押すと、8倍に拡大します。8倍以上の拡大表示中にADJ./OKボタンを押すと、16倍に拡大します。 画像サイズが1280×960以下の場合： 拡大表示中にADJ./OKボタンを押すと、最大倍率に拡大表示します。 画像サイズにかかわらず、最大倍率で表示されているときにADJ./OKボタンを押すと、元の大きさに戻ります。また、拡大表示中にADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押すと、表示箇所を移動することができます。

メモ

- セットアップメニューで［画像確認時間］を［HOLD］に設定している場合（☞P.164）、撮影後の確認画面で画像を拡大表示することもできます。
- 動画は拡大表示することができません。

削除する

不要なファイルや撮影に失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーから削除することができます。

メモ

- 誤って必要なファイルを削除してしまった場合は、[ファイル復元]機能を使うと、削除したファイルを元に戻すことができます。(☞P.139)
- セットアップメニューで［画像確認時間］を［HOLD］に設定している場合（☞P.164）、撮影後の確認画面で画像を削除することもできます。

1ファイルを削除する

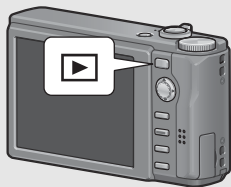
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、削除したいファイルを表示する

3 🗑（削除）ボタンを押す

4 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、[1ファイル削除] を選ぶ

- ◀▶ 側に押すと、削除するファイルを変更できます。

5 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4の画面に戻ります。

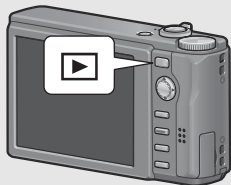
すべてのファイルを削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 🗑（削除）ボタンを押す

3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、［全削除］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

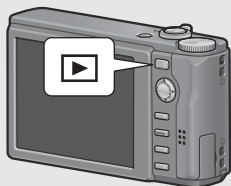
- 削除の確認画面が表示されるので、ADJ./OKボタンを▶側に押して［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押します。

複数のファイルを一度に削除する

複数のファイルを一度に削除する場合は、削除するファイルを1つずつ指定する方法と、削除する範囲を指定する方法があります。また、両方の指定方法を組み合わせて削除することもできます。

1 ▶ボタンを押す

2 ズームレバーを⊞(サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 🗑ボタンを押す

● 削除するファイルを1つずつ指定する場合

4 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、削除したいファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

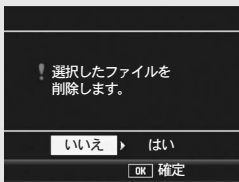
- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

5 手順4を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択してADJ./OKボタンを再度押すと解除できます。

6 🗑（削除）ボタンを押す

7 ADJ./OK ボタンを ◀▶ 側に押して、［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

●削除する範囲を指定する場合

4 MENUボタンを押す

- もう一度MENUボタンを押すと、1ファイルずつ指定する画面に戻ります。

5 ADJ./OK ボタンを▲▼◀▶側に押して、削除したい範囲の始点になるファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、ADJ./OKボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。

6 ▲▼◀▶側に押して、削除したい範囲の終点になるファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

7 手順5、6を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

- 間違えて選択したときは、MENUボタンを押して1ファイルずつ指定する画面に戻り、ファイルを選択してADJ./OKボタンを押すと解除できます。

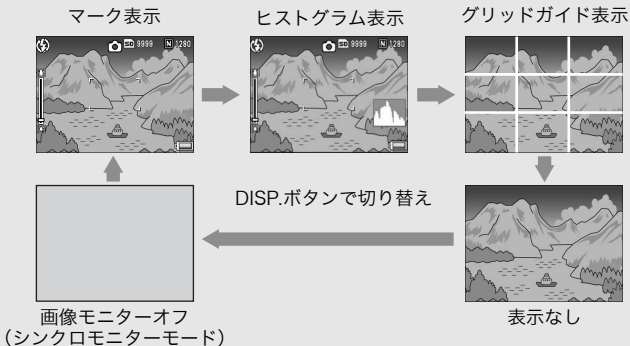
8 🗑（削除）ボタンを押す

9 ADJ./OK ボタンを◀▶側に押して、[はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

DISP.ボタンで画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

● **撮影モード時**

グリッドガイド表示

画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

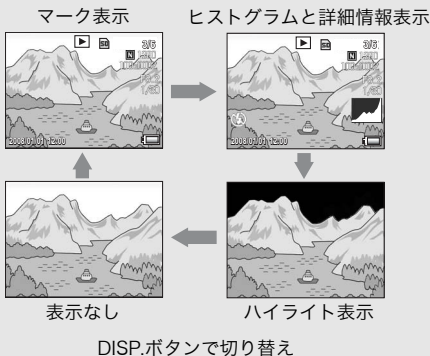
シンクロモニターモード

カメラ操作時以外は、画像モニターをオフにする機能です。節電に効果があります。シャッターボタンを半押しすると、画像モニターがオンになり、押し切ったあとに確認画面が表示されて、画像モニターがオフになります。
（セットアップメニューの［画像モニター節電］とは異なります。）

メモ

- イージー撮影モード時は、DISP.ボタンで画面の表示を切り替えることはできません。
- [水準器設定]を[表示のみ]または[表示+音]に設定している場合は（☞P.168）、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます。（☞P.60）
- 画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ADJ./OKボタン、DISP.ボタン、▶（再生）ボタンを押した場合
  - マニュアルフォーカス中（☞P.82）にADJ./OKボタンを▲▼側に押した場合

●再生モード時

DISP.ボタンで切り替え

ハイライト表示

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。構図を変える、露出を−側に補正する（☞P.106）などして、撮り直すことをお勧めします。

メモ

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

電子水準器について

セットアップメニューまたはDISP.ボタンの長押しで［水準器設定］をオンにすると（☞P.168）、撮影する画像が水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認することができます。水平インジケーターは、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます。
風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図等で特に有効です。
［水準器設定］の設定方法は、P.168を参照してください。

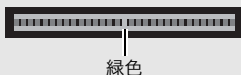
●［水準器設定］を［表示のみ］に設定している場合：
画像モニターに水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。

●［水準器設定］を［表示＋音］に設定している場合：
画像モニターに水平インジケーターが表示されます。カメラが水平のときは、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

●［水準器設定］を［音のみ］に設定している場合：
カメラが水平のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。水平インジケーターは表示されません。

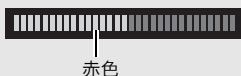
水平インジケーターの表示

水平の場合：

水平インジケーターが緑色になり、目盛りが真中を指します。

左右に傾いている場合：

水平インジケーターの目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

左右に傾けすぎている場合：

カメラの傾きと反対側の半分が赤色になります。目盛りは表示されません。

カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合：

水平インジケーターの上下が赤くなります。目盛りは表示されません。

カメラを縦にしている場合：

カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認することができます。

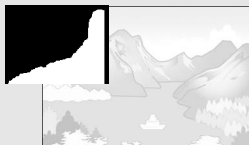
注意

- グリッドガイド表示、表示なし、画像モニターオフのときは(☞P.58)、水準器音は鳴りますが水平インジケーターは表示されません。[水準器設定] を [表示＋音] に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物に乗っているなど、ゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- [水準器設定] を [表示＋音] または [音のみ] に設定していても、[操作音音量設定] を [□□□]（なし）に設定している場合(☞P.168) は、音は鳴りません。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の水準器の精度は保証できません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、画像モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。
ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムの山が右側だけ盛り上がっている場合は、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

グラフの山が左側だけ盛り上がっている場合は、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。

メモ

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- 撮影後に、ヒストグラムを調整しながら画像の明度、コントラストを補正することができます。（☞P.124）
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.106を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

ADJ.モードの機能

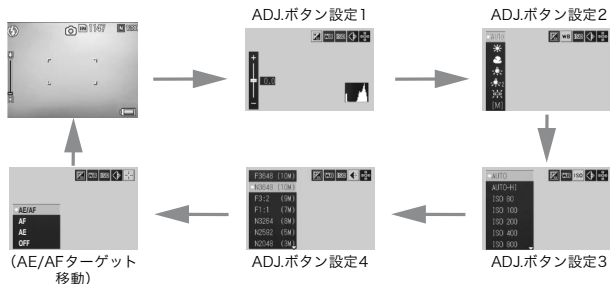
ADJ./OKボタンには、撮影設定メニューのうち4つの機能を登録することができます。5つ目の機能（AE/AFターゲット移動☞P.67）は固定されており、変更することはできません。
ADJ./OKボタンを使うと、撮影設定メニューを表示することなく少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくと便利です。
ご購入時には撮影設定メニューのうち4つの機能が登録されていますが、セットアップメニューで機能を変更することができます。機能変更の操作はP.167を参照してください。

ADJ.モードでの操作方法は、以下のとおりです。

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す、またはADJ./OKボタンを▲▼側に押す

- ADJ.モード画面が表示されます。手順1で▲▼側に押した場合は、1項目目の設定が変更された状態で表示されます。
- 5つ目のアイコン（AE/AFターゲット移動）は固定されており、セットアップメニューで変更することはできません。

2 ADJ./OKボタンを◀▶側に押して、設定したい項目を選択する

- 以下の画面は、セットアップメニューで［ADJ.ボタン設定1］〜［ADJ.ボタン設定4］に［露出補正］、［ホワイトバランス］、［ISO］、［画質］の機能を登録した場合の画面例です。

3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、設定を選択する

4 ADJ./OKボタンを押して確定する

［ADJ.ボタン設定］で登録できる機能（☞P.167）

露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正、最小絞り

メモ--

- シーンモード時、イージー撮影モード時、動画時は、ADJ./OK ボタンで設定できる機能がオート撮影モード時と異なります。ADJ./OKボタンで設定できる項目は、以下のとおりです。

撮影モード	設定できる項目
シーンモード［文字］	文字濃度（☞P.66）
シーンモード［文字］以外	露出補正、ホワイトバランス
イージー撮影モード	画質
動画	ホワイトバランス

- カメラメモを使用しているときは、ADJ.モードは使用できません。（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』）

文字濃度を変える（シーンモード）

シーンモードの［文字］で撮影する（☞P.44）場合、ADJ./OKボタンで文字の濃淡を変更することができます。
濃淡は［濃い］、［標準］、［淡い］から選択できます。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.77）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENUボタンを押す

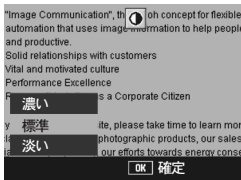
- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、［文字］を選び、ADJ./OKボタンを押す

4 ADJ./OKボタンを押す

- 文字濃度のメニューが表示されます。

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、濃度を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 文字濃度の設定は画面上には表示されません。

AEとAFのターゲットを移動する

撮影時にカメラを動かすことなく、ADJ./OKボタンでAE（自動露出）とAF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。三脚を使った撮影時などに便利です。

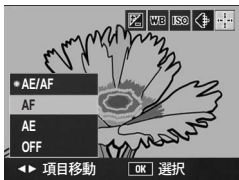
設定	内容
AE/AF	AEとAFはそれぞれスポットAE、スポットAFとなり、ターゲットを同時に移動できます。(スポットAEとスポットAFのターゲットは同じ位置になります。)
AF	AFがスポットAFとなり、ターゲットを移動できます。測光は撮影設定メニューの［測光］で選択した設定になります(☞P.84)。
AE	AEがスポットAEとなり、ターゲットを移動できます。フォーカスは撮影設定メニューの［フォーカス］で選択した設定になります（☞P.81）。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

3 ADJ./OK ボタンを ◀▶ 側に押して、✥を選択する

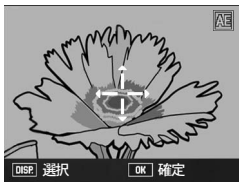
4 ▲▼側に押して設定を選び、ADJ./OKボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。

5 ▲▼◀▶側に押して、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

- DISP.ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

7 シャッターボタンを半押しする

- ［AE/AF］を選択している場合は、スポットAEとスポットAFの位置が表示されます。
- ［AF］を選択している場合は、スポットAFの位置が表示されます。
- ［AE］を選択している場合は、スポットAEの位置とピント合わせの枠が表示されます。

8 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ

- ターゲットを移動した後に［AE］、［AF］、［AE/AF］の設定を変更すると、移動したターゲットの位置は中央に戻ります。
- ［フォーカス］を［MF］に設定している場合は、AE/AF ターゲット移動機能は使用できません。（☞P.82）

Fn（ファンクション）ボタンの使い方

セットアップメニューの［Fnボタン設定］で機能を登録すると（☞P.158）、Fn（ファンクション）ボタンを押すだけで色々な機能を切り替えることができます。
Fnボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。それぞれの操作方法は各参照先をご覧ください。

モードダイヤルが📷のとき

設定	内容	参照先
ターゲット移動 ※購入時の設定	AEとAFの両方、またどちらかのターゲットを移動する	P.70
AEロック	露出を固定する	P.72
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、最小絞り	各機能のオン／オフを切り替える	P.73

モードダイヤルがSCENEのとき

設定	内容	参照先
マクロターゲット ※購入時の設定	カメラを動かさずにAFターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.71
AEロック	露出を固定する	P.72
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、最小絞り	各機能のオン／オフを切り替える	P.73

メモ--

シーンモード別の設定可能項目は以下のとおりです。○以外の項目は、［Fnボタン設定］で登録はできますが、Fnボタンを押しても動作しません。

設定	ポートレート	フェイス	スポーツ	遠景	夜景	夜景ポートレート	高感度	ズームマクロ	斜め補正	文字
マクロターゲット	－	－	－	－	－	－	○	○	○	○
AEロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ステップズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AT-BKT	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－
WB-BKT	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－
CL-BKT	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－
最小絞り	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－

モードダイヤルがEASYのとき

設定	内容	参照先
逆光補正 ※購入時の設定	逆光補正機能のオン／オフを切り替える	P.73
マクロターゲット	カメラを動かさずにAFターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.71

メモ

動画モード時は、Fn（ファンクション）ボタンを押しても動作しません。

AEとAFのターゲットを移動する（ターゲット移動）

撮影時にカメラを動かすことなく、AE（自動露出）とAF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。機能の内容は、ADJ./OKボタンでのAE/AFターゲット移動機能と同じです。機能についての詳細は、P.67を参照してください。

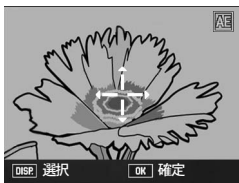
1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［ターゲット移動］に設定する

- 操作方法はP.158を参照してください。

3 撮影できる状態で、Fn（ファンクション）ボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

5 DISP.ボタンを押す

6 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して設定を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 各設定項目の詳細は、P.67を参照してください。
- ターゲット移動画面が再度表示されます。
- [OFF] を選択した場合は、撮影画面に戻ります。

7 ターゲットを合わせたい位置と十字が合っている場合は、ADJ./OKボタンを押す

- 十字が合っていない場合は、十字を移動します。

8 シャッターボタンを半押しする

- [AE/AF] を選択している場合は、スポットAEとスポットAFの位置が表示されます。
- [AF] を選択している場合は、スポットAFの位置が表示されます。
- [AE] を選択している場合は、スポットAEの位置とピント合わせの枠が表示されます。

9 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

AFターゲットを移動してマクロ撮影をする（マクロターゲット）

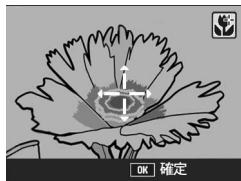
シーンモード時またはイージー撮影モード時に、カメラを動かすことなくAFターゲットを移動してマクロ撮影ができます。マクロターゲットを移動した位置でフォーカスロック（☞P.34）を行い、撮影ができるので、三脚使用時などに便利です。

1 モードダイヤルをSCENEまたはEASYに合わせる

2 セットアップメニューで [Fnボタン設定] を [マクロターゲット] に設定する

- 操作方法はP.158を参照してください。

3 撮影できる状態で、Fn（ファンクション）ボタンを押す

- マクロターゲット移動画面が表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

5 ADJ./OKボタンを押す

6 シャッターボタンを半押しする

- 十字の位置にピント合わせが行われます。

7 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- Fnボタンを押す、またはADJ./OKボタンを🌷（マクロ）側に押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

メモ

AE/AFターゲット移動機能とは異なります。（☞P.67、70）

露出を固定する（AEロック）

Fn（ファンクション）ボタンに[AEロック]を登録する（☞P.158）と、撮影時にFnボタンを押して、露出の固定（AEロック）、解除を切り替えることができます。

1 モードダイヤルを📷またはSCENEに合わせる

2 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［AEロック］に設定する

- 操作方法はP.158を参照してください。

3 撮影できる状態にする

4 画像モニターの中央に露出を固定したい被写体を合わせ、Fnボタンを押す

- 露出が固定され、画面にAELマーク、絞り値、シャッタースピードが表示されます。
- もう一度Fnボタンを押すと、AEロックが解除されます。

メモ

［長時間露光］を［OFF］以外に設定している場合、AEロック機能は使用できません。

イージー撮影モード時に、逆光補正機能を使う（逆光補正）

明るい背景をバックにして人物を撮影するときなど、主要被写体が暗くなってしまう場合は逆光補正機能を使用します。
イージー撮影モードでFn（ファンクション）ボタンに［逆光補正］を登録する（☞P.158）と、撮影時にFnボタンを押して、逆光補正機能のオン／オフを切り替えることができます。

1 モードダイヤルをEASYに合わせる

2 セットアップメニューで［Fn ボタン設定］を［逆光補正］に設定する

- 操作方法はP.158を参照してください。

3 撮影できる状態で、Fn ボタンを押す

- 逆光補正機能がオンになり、画面にマークが表示されます。
- もう一度 Fn ボタンを押すと、逆光補正機能がオフになります。

メモ

- ［逆光補正］は、イージー撮影モードのときのみ設定できます。
- マクロ撮影時は、［逆光補正］は使用できません。

いろいろな機能のオン／オフを切り替える

Fnボタンに以下のいずれかを登録して（☞P.158）Fnボタンを押すと、それぞれの機能のオン／オフを切り替えることができます。

ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、最小絞り

1 モードダイヤルを📷またはSCENEに合わせる

2 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を上記いずれかの項目に設定する

- 操作方法はP.158を参照してください。

3 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- それぞれの機能のオン／オフが切り替わります。

メモ

それぞれの機能は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.74）

撮影設定メニューについて

撮影モードでMENUボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

モードダイヤルが📷／MY1／MY2のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	F3648(10M)、[N3648(10M)]、F3 : 2(9M)、F1 : 1(7M)、N3264(8M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.79
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.81
測光	[マルチ]、中央、スポット	P.84
連写	[OFF]、連写、S連写、M連写	P.85
画像設定	自動レベル、硬調、[普通]、軟調、カスタム設定、白黒、セピア	P.89
フラッシュ調光補正	-2.0～+2.0	P.91
オートブラケット	[OFF]、ON、WB-BKT、CL-BKT	P.92
長時間露光	[OFF]、1秒、2秒、4秒、8秒	P.97
デュアルサイズ記録	[OFF]、ON	P.98
カスタムセルフ	撮影枚数、撮影間隔	P.99
最小絞り固定	[OFF]、ON	P.100
インターバル撮影	[0秒]、5秒～3時間	P.101
手ブレ補正	OFF、[ON]	P.103
スローシャッター速度制限	[OFF]、1/2秒、1/4秒、1/8秒	P.104
日付入れ撮影	[OFF]、日付、日時	P.105
露出補正	-2.0～+2.0	P.106
ホワイトバランス	[AUTO]、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(白熱灯2)、(蛍光灯)、(手動設定)	P.107
ISO感度	[AUTO]、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600	P.109
撮影設定初期化	――	P.111

1 いろいろな撮影

モードダイヤルがEASYのとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	F3648(10M)、[N3648(10M)]、F3 : 2(9M)、F1 : 1(7M)、N3264(8M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.79

モードダイヤルが動画のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
動画サイズ	[640]、320	P.79
フレームレート	[30コマ／秒]、15コマ／秒	P.113
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.81
ホワイトバランス	[AUTO]、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(白熱灯2)、(蛍光灯)、(手動設定)	P.107

モードダイヤルがSCENEとき

モードダイヤルがSCENEのときは、シーンモードの種類によって表示される項目が異なります。以下を参照してください。

設定項目	ポートレート	フェイス	スポーツ	遠景	夜景	高感度	ズームマクロ	夜景ポートレート	斜め補正	文字	参照先
画質・サイズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	P.79
文字濃度	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	P.66
サイズ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	P.79
フォーカス	○	−	○	−	○	○	○	○	○	−	P.81
測光	−	−	−	−	−	−	○	−	○	−	P.84
連写	−	−	−	−	−	−	○	−	−	−	P.85
画像設定	−	−	−	−	−	−	○	−	○	−	P.89
フラッシュ調光補正	○	○	○	−	○	○	○	−	○	−	P.91
オートブラケット	−	−	−	−	−	−	○	−	−	−	P.92
長時間露光	−	−	−	−	−	−	○	−	−	−	P.97
デュアルサイズ記録	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	P.98
カスタムセルフ	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	P.99
最小絞り固定	−	−	−	−	−	−	○	−	○	−	P.100
インターバル撮影	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	P.101
手ブレ補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P.103
スローシャッター速度制限	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P.104
日付入れ撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P.105
露出補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	P.106
ホワイトバランス	○	−	○	○	○	○	○	○	○	−	P.107
ISO感度	−	○	−	−	−	−	○	−	○	−	P.109
撮影設定初期化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	P.111

○ 設定可能　　− 設定不可

メモ --

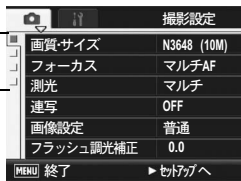
撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。（☞P.149）

メニューの操作方法

本文中では、メニュー選択確定の操作（以下手順5）は「ADJ./OKボタンを押す」と説明していますが、ADJ./OKボタンを◀側に押しても、設定が確定してメニュー画面に戻ります。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。
- シーンモードの場合は、ADJ./OKボタンを▲側に1回または2回押し、[MODE] タブを選択します。その後▶側に押すと、撮影設定メニューが表示されます。

設定画面が4画面あることを示しています。

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、設定する項目を選ぶ

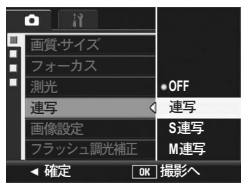
- この画面で DISP. ボタンを押すと、手順1の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押すと、次の設定画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▶側に押す

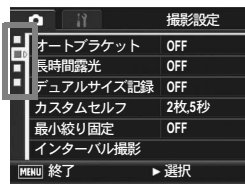
- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、選択肢を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

- 設定が確定し、撮影設定メニューが消えて撮影できる状態になります。
- 手順5でADJ./OKボタンを◀側に押すと、設定が確定して手順2の画面に戻ります。

画面の切り替え

ADJ./OKボタンを◀側に押すと、画面左のタブが選択できる状態になります。(この画面でDISP.ボタンを押すと、手順1の画面に戻ります。)

- ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、画面を切り替えます。
- ADJ./OKボタンを▶側に押すと、項目を選択する状態に戻ります。

画質モード／画像サイズを選ぶ（画質・サイズ）

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	備考
3648×2736	F(Fine) N(Normal)	F3648(10M) N3648(10M)	• 大きくプリントする • パソコンに取り込んでトリミングなどの加工を行う
3648×2432	F(Fine)	F3：2(9M)	
2736×2736	F(Fine)	F1：1(7M)	
3264×2448	N(Normal)	N3264(8M)	
2592×1944	N(Normal)	N2592(5M)	• プリントする
2048×1536	N(Normal)	N2048(3M)	
1280×960	N(Normal)	N1280(1M)	• 枚数を多く撮る
640×480	N(Normal)	N640(VGA)	• 枚数を多く撮る • メールに添付 • ホームページ用の画像として使用

- シーンモードの［斜め補正］の場合は、1280 × 960、640 × 480から選択できます。
- シーンモードの［文字］の場合は、3648×2736、2048×1536から選択できます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
640×480	640
320×240	320

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。（☞P.113）

メモ

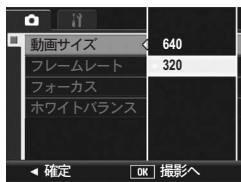
- 画質モードは圧縮率によりNormalモード（N）とFineモード（F）があります。
  Normalモード：画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。
  Fineモード：画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。
- 内蔵メモリー／SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ] によって異なります。（☞P.209）

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[画質・サイズ] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

静止画の場合

動画の場合

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に設定が表示されます。

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。
ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の5種類があります。

選択できるピント合わせの方式

マーク	方式	内容
なし	マルチAF	9箇所のAFエリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	AFエリアを画像モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
MF	MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。（☞P.82）
S	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
∞	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[フォーカス] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- [マルチAF]、[スポットAF] 以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

手動でピントを合わせて撮影する（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。
マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。

メモ
- シーンモードでは、［ズームマクロ］、［斜め補正］のときマニュアルフォーカスが使用できます。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。

1 撮影設定メニューを表示する
- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを▼側に押して、［フォーカス］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［MF］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す
- 画面に［MF］と表示されます。

5 必要に応じて、ADJ./OKボタンを▼側に押す
- ▼側に押すと、画面中央部のみ拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。
- 再度▼側に押すと、拡大表示から通常表示に戻ります。

1 いろいろな撮影

6 ◀側に押して、フォーカスバー表示にする

- ◀側に押すたびに、フォーカスバー表示とズームバー表示が切り替わります。

7 ズームレバーを〔♣〕（望遠）側や〔♠〕（広角）側に回してピントを合わせる

- ズームレバーを〔♣〕側に回すと遠距離方向に移動します。
- ズームレバーを〔♠〕側に回すと近距離方向に移動します。

8 シャッターボタンを押して撮影する

メモ

ズームバー表示のときには、ズームレバーを〔♣〕側や〔♠〕側に回すことでズームバーを操作することができます。

測光モードを変える（測光）

露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更することができます。
測光モードには、次の3種類があります。

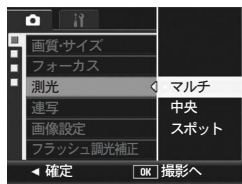
選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
（マーク表示なし）	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
[中央マーク]	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
[スポットマーク]	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［測光］を選び、▶側に押す

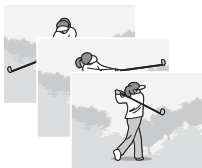
3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

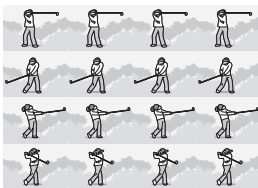
- ［マルチ］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

連写で撮る（連写／S連写／M連写）

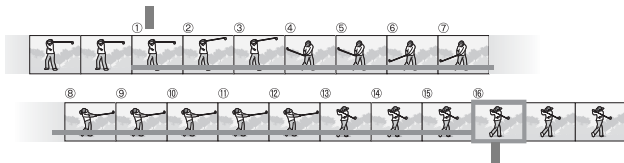
連写に設定すると、連続撮影ができます。
連写には次の3種類があります。

連写

シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。

S（ストリーム）連写

シャッターボタンを押し切った瞬間から撮影間隔1/7.5秒で16枚（約2秒間）連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（3648×2736ピクセル）として記録します。

M（メモリー逆戻り）連写

シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった約2秒を連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（3648×2736ピクセル）として記録します。

②約2秒間さかのぼって記録

①ここでシャッターを離すと・・・

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[連写]を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[連写]、[S連写]、[M連写]のいずれかを選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

連写のとき

5 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

6 シャッターボタンを離して連写を終了する

- 連写で撮影した静止画を再生するには、再生モード（☞P.50）でADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押し、再生したい静止画を選択します。

S連写のとき

5 構図を決めて、シャッターボタンを押す

- 自動的に16枚連続して撮影されます。

M連写のとき

5 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- カメラが被写体を記憶（メモリー）します。

6 シャッターボタンを離す

- 連写が終了し、直前の約2秒間（16枚）を1枚の静止画として記録します。

注意

- S連写／M連写のときは、セットアップメニューの［デジタルズーム切替］を［オートリサイズ］に設定していても、デジタルズームが有効になります。
- シーンモードでは、［ズームマクロ］のときのみ連写の設定が可能です。
- 内蔵メモリ使用時は、記録完了までに時間がかかる場合があります。
- 最大連続撮影可能枚数は、999枚です。残容量が1000枚以上ある場合でも、画像モニターには999と表示されます。

メモ

- 通常の1枚ごとの撮影に戻したいときには、手順3で［OFF］を選択してADJ./OKボタンを押します。
- M連写では、シャッターボタンを押しはじめてから2秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録され、連続撮影枚数は16枚より少なくなります。
- フラッシュは、発光禁止になります。
- 連写を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写を設定すると、が に切り替わります。(☞P.103)
- 連写時は、フォーカスと露出値が固定されます。
- ［カード連続NO.］を［ON］に設定している場合（☞P.175）、連写撮影中にファイル番号の下4桁が「9999」を超えると、SDメモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。
- S連写／M連写のときは、ISO感度を［ISO 80］、［ISO 100］に設定しても［AUTO］になります。
- 連写を使って撮影するときの連続撮影可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- 内蔵メモリーを使用した場合の連続撮影可能枚数は、下記の表のとおりです。

画像サイズ	連続撮影可能枚数
3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264×2448、2592×1944、2048×1536	4枚
1280×960、640×480	10枚

S連写／M連写した静止画を拡大して見る

S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。
S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

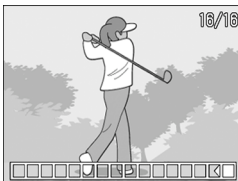
1 いろいろな撮影

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、S連写またはM連写で撮影した静止画を表示する

3 ズームレバーを🔍（拡大表示）側に回す

- 連写した先頭の1コマが拡大表示されます。画像モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ADJ./OKボタンを◀▶側に押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、ADJ./OKボタンを押します。

メモ---

DISP.ボタンを押すたびに、画像モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。（☞P.58）

画質と色を設定する（画像設定）

コントラスト、シャープネス、色、色の濃さなど画像の画質を変更できます。
画質は、以下の7種類から選択できます。

選択できる画像設定の種類

設定	内容
自動レベル	明暗差のある画像でも、白飛びや黒つぶれを低減して適切な明るさになるように、カメラが自動的に階調を補正して記録します。
硬調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを高めにすることによって、硬い感じの画質にします。
普通	通常の画質です。
軟調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを低めにすることによって、軟らかい感じの画質にします。
カスタム設定	［コントラスト］、［シャープネス］、［色の濃さ］を5段階から選択できます。（☞P.90）
白黒	白黒の画像です。
セピア	セピア調の画像です。

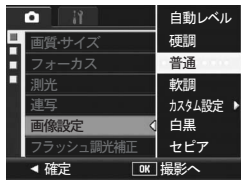
1 撮影設定メニューを表示する

• 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［画像設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、画質を選ぶ

• ［カスタム設定］の場合は、値を設定します（☞P.90）。すでに値を設定している場合は、［カスタム設定］を選択するだけで、画質が設定できます。

1
いろいろな撮影

4 ADJ./OKボタンを押す

- ［普通］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

> **メモ**
>
> ［自動レベル］では、露出補正の効果が得られにくい場合や、［画像設定］の他の設定に対して色合いが部分的に異なる場合があります。

オリジナルの画質を設定する（カスタム設定）

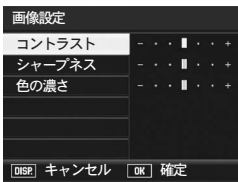
1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［画像設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［カスタム設定］設定を選び、▶側に押す

- ［画像設定］画面が表示されます。
- すでに値を設定している場合は、［カスタム設定］のいずれかを選択するだけで、画質が設定できます。

4 ADJ./OKボタンを▲▼側にを押して、［コントラスト］、［シャープネス］、［色の濃さ］を選び、◀▶側に押してそれぞれの値を設定する

5 ADJ./OKボタンを押す

- ［カスタム設定］の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

フラッシュの光量を調整する（フラッシュ調光補正）

フラッシュの光量を調整することができます。光量は、-2.0EV～+2.0EVの間で、1/3EV間隔で設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

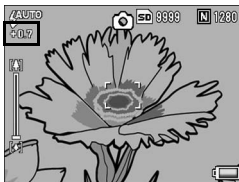
- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［フラッシュ調光補正］を選び、▶側に押す

- フラッシュ調光補正バーが表示されます。

3 ▲▼側に押して、値を設定する

4 ADJ./OKボタンを押す

- フラッシュが［発行禁止］以外の場合、画面に設定値が表示されます。

メモ

フラッシュを使用して撮影する場合の操作方法は、P.39を参照してください。

注意

フラッシュの撮影距離範囲外（☞P.39）では補正されない場合があります。

露出を変化させて連続撮影する（オートブラケット）

オートブラケットは、設定されている露出を基準に-0.5EV、±0、+0.5EVと3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影する機能です。

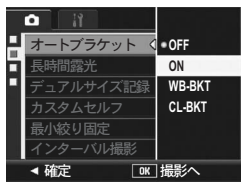
1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[オートブラケット] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[ON] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されている露出補正値を基準に、±0、-0.5EV、+0.5EVで3枚連続撮影されます。
撮影直後に画像モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.5EV（暗い）、基準の補正値、+0.5EV（明るい）です。

メモ

- 露出補正値は、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.106）
- 連写を設定している場合は使用できません。（☞P.85）
- フラッシュは発光禁止になります。
- [長時間露光] の設定は無効になります。（☞P.97）
- オートブラケットでは、露出以外にホワイトバランスまたは色を変更して撮影することもできます。選択できるのは、ひとつだけです。
- [Fnボタン設定] で [AT-BKT] を設定する（☞P.158）と、Fn（ファンクション）ボタンで [オートブラケット] のオン／オフを切り替えることができます。（☞P.69）

ホワイトバランスを変化させて連続撮影する（WB-BKT：ホワイトバランスブラケット）

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。
適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

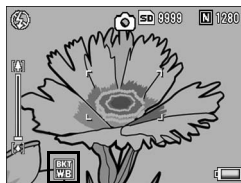
1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[オートブラケット］を選び、▶側に押す

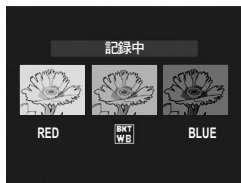
3 ▲▼側に押して、[WB-BKT］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。

1
いろいろな撮影

メモ--

- 連写を設定している場合は使用できません。（☞P.85）
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［長時間露光］の設定は無効になります。（☞P.97）
- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.107）
- ［Fnボタン設定］で［WB-BKT］を設定する（☞P.158）と、Fn（ファンクション）ボタンで［WB-BKT］のオン／オフを切り替えることができます。（☞P.69）
- ［画像設定］を［白黒］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが動作しません。

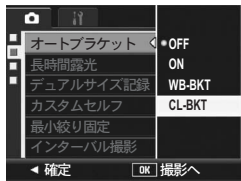
色を変えて連続撮影する（CL-BKT：カラーブラケット）

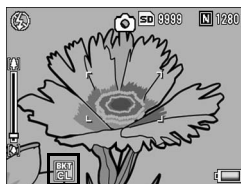
［CL-BKT］を選択して静止画を撮影すると、白黒、カラー、セピアの3枚の画像が自動的に記録されます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［オートブラケット］を選び、▶側に押す

3 ▲▼ 側に押して、［CL-BKT］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 白黒、カラー、セピアの3枚の画像が記録されます。

メモ

- 連写を設定している場合は使用できません。（☞P.85）
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［長時間露光］の設定は無効になります。（☞P.97）
- ［Fnボタン設定］で［CL-BKT］を設定する（☞P.158）と、Fn（ファンクション）ボタンで［CL-BKT］のオン／オフを切り替えることができます。（☞P.69）

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さについて

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さについては、[画像設定]の設定値が以下のとおり反映されます。

- カラーブラケット撮影の白黒画像：
  [画像設定]の[白黒]の設定値が反映されます。
- カラーブラケットのセピア画像：
  [画像設定]の[セピア]の設定値が反映されます。
- カラーブラケットのカラー画像：
  [画像設定]で選択している項目の設定値が反映されます。ただし、[画像設定]で[白黒]または[セピア]を選択している場合は、[画像設定]の[普通]の設定値が反映されます。

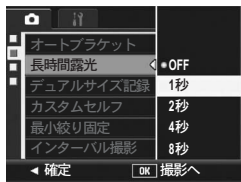
長時間露光を設定する（長時間露光）

長時間露光は［1秒］、［2秒］、［4秒］、［8秒］から選択できます。長時間露光を設定すると、夜景を写したときに、花火や車などの被写体の軌跡を撮影することができます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［長時間露光］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に設定が表示されます。

メモ

- 長時間露光を設定すると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。三脚等を使用して撮影してください。
- 長時間露光を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で長時間露光を設定すると、((手))が((手/))に切り替わります。
- 長時間露光を設定して撮影した場合、撮影中は画像モニターが消灯します。

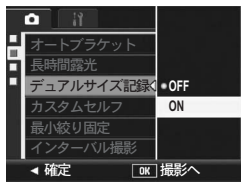
サブファイル付き画像を撮影する（デュアルサイズ記録）

［デュアルサイズ記録］をオンにして撮影すると、オリジナルの静止画とサブファイルの2枚が同時に保存されます。サブファイルのサイズは、セットアップメニューの［サブファイルサイズ］で選ぶことができます。(☞P.161)

1 撮影設定メニューを表示する

• 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを▼側に押して、［デュアルサイズ記録］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［ON］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

• 画面にマークが表示されます。

注意

• オリジナルの画像サイズが640×480の場合は、サブファイルは作成されません。
• オリジナルの画像サイズと同じサイズのサブファイルを設定すると、［デュアルサイズ記録］を［ON］に設定して撮影しても、サブファイルは保存されません。(☞P.161)
• 連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット、シーンモードの［斜め補正］では、［デュアルサイズ記録］を［ON］に設定しても、サブファイル付き画像を撮影することができません。

セルフタイマーで複数枚撮影するための設定を行う（カスタムセルフ）

セルフタイマーで複数枚撮影したい場合に、撮影間隔と撮影枚数を以下のとおり設定しておきます。

設定	内容
撮影枚数	1〜10枚の間で設定できます。購入時の設定は［2枚］です。
撮影間隔	5〜10秒までの間で設定できます。購入時の設定は［5秒］です。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［カスタムセルフ］を選び、▶側に押す

- 設定画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを◀▶側にを押して、［撮影枚数］、［撮影間隔］を選び、▲▼側に押してそれぞれの値を設定する

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ--

［カスタムセルフ］設定後は、撮影できる状態で（セルフタイマー）ボタンを押し、［カスタムセルフ］に切り替えてから撮影してください。撮影方法の詳細はP.49を参照してください。

1 いろいろな撮影

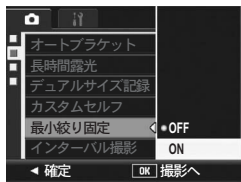
最小絞りで撮影する（最小絞り固定）

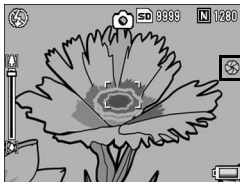
[最小絞り固定]を[ON]に設定すると、絞りを絞った状態で撮影できるので、ピントの合う範囲が広がります。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[最小絞り固定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[ON] を選ぶ

4 ADJ./OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

注意

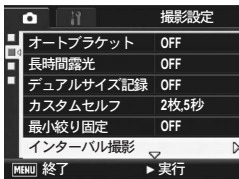
- 動画の場合は、[最小絞り固定] を設定することはできません。
- シーンモードの場合は、[ズームマクロ]、[斜め補正] のみ [最小絞り固定] を設定することができます。
- [最小絞り固定] を [ON] に設定し、[♠](望遠) 側にズームした場合、画質が低下することがあります。
- [Fnボタン設定] で [最小絞り] を設定する (☞P.158) と、Fn (ファンクション) ボタンで [最小絞り固定] のオン／オフを切り替えることができます。(☞P.69)

一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影）

設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、5秒〜3時間の間で5秒単位で設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

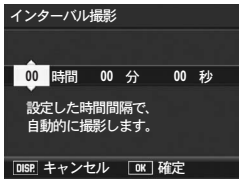
- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[インターバル撮影] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、時間を設定する

- インターバル撮影をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押すと撮影設定メニューに戻ります。

インターバル撮影
00 時間 00 分 00 秒
設定した時間間隔で、
自動的に撮影します。
DISP. キャンセル OK 確定

4 ▶ 側に押して分の設定へ移動し、▲▼側に押して、分を設定する

- ▲▼側に押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。

5 ▶側に押して秒の設定へ移動し、▲▼側に押して、秒を設定する

6 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に［インターバル］と表示されます。

7 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定した間隔で、次々に撮影されます。

8 撮影を中止するときは、MENUボタンを押す

注意

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなることがあります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。
- シーンモードでは、インターバル撮影はできません。

メモ

- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。充分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が［連写］、［M連写］に設定されていても、自動的に［OFF］に切り替わります。
- 充分に空き容量のあるSDメモリーカードまたは高速メモリカードのご使用をお勧めします。
- インターバル撮影を設定すると、セルフタイマーの設定は無効になります。

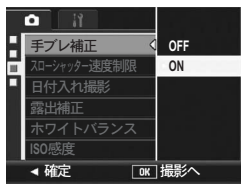
手ブレ補正機能で手ブレを防ぐ（手ブレ補正）

手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレが起きにくくなります。購入時は、手ブレ補正機能がオンに設定されています。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［手ブレ補正］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［ON］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

注意

- 連写、長時間露光、動画の場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写または長時間露光を設定すると、手ブレ補正マークが手ブレ補正オフマークに切り替わります。モードダイヤルを動画に合わせると、手ブレ補正マークの表示が消えます。
- 被写体ブレ（被写体が風などで揺れてぶれる）は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ

手ブレがしやすい状態だと手ブレ警告マークが表示されます。（☞P.33）

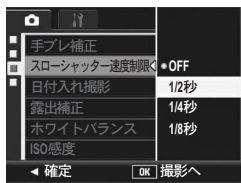
シャッタースピードを制限する（スローシャッター速度制限）

最長シャッタースピードを次の値に制限することができます。
　1/8秒、1/4秒、1/2秒
［OFF］に設定すると、ISO感度の設定値により最長シャッタースピードは異なります。

1 撮影設定メニューを表示する
- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［スローシャッター速度制限］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す
- 画面に設定値が表示されます。

メモ
- 長時間露光の設定時は、長時間露光が優先されます。
- シーンモードの［夜景］または［夜景ポートレート］選択時は、［夜景］または［夜景ポートレート］の最長シャッタースピードが優先されます。
- フラッシュが［スローシンクロ］に設定されている時は、最長シャッタースピードが1秒になります。
- スローシャッター速度制限を使用する場合、被写体の明るさによっては光量が不足し画像が暗くなることがあります。そのときは以下の方法をお試しください。
  - スローシャッター速度制限を長くする
  - ISO感度を上げる（☞P.109）
  - フラッシュを使う（☞P.39）

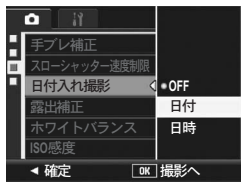
静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[日付入れ撮影] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ--

- 日付・時刻が設定されていないと［日付入れ撮影］はできません。あらかじめ日付・時刻を設定してください。（☞P.177）
- 動画に日付を入れることはできません。
- 画像に入れた日付を削除することはできません。

露出を変える（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。撮影範囲の中央に被写体がある場合、通常は自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。
次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、-2.0～+2.0の間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合
背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合
全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合
全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、－側に調整します。
スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.77）を参照して操作してください。

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 露出補正バーが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、値を設定する
- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ./OKボタンを押す
- 画面に設定値が表示されます。

メモ
明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）

白い被写体が白く写るように調整を行います。
購入時、ホワイトバランスモードは［AUTO］（自動）に設定されています。通常は変更の必要はありませんが、単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日陰等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	白熱灯2	白熱灯の下での撮影時（［白熱灯］に比べて赤みを残して撮影します）
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
[M]	手動設定	手動設定を行います。（☞P.108）

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.77）を参照して操作してください。

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［M］以外の設定を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

1 いろいろな撮影

注意

［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定している場合、またはシーンモードの［文字］の場合は使用できません。

メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、［AUTO］を選択してフラッシュ撮影をしてください。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［M］を選ぶ

4 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

5 DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 手順5で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ

手動設定を解除するには、上記の手順3で［M］以外を選択します。

撮影感度を設定する（ISO感度）

ISO感度は、光に対するフィルムの敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。
ISO感度は、次の設定から選択できます。

AUTO、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600

ISO感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、［AUTO］のままで撮影します。
［AUTO-HI］（高感度設定オート）も、撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、［AUTO］よりも感度の上限を高く設定できます。また、暗い被写体等を撮影した場合、シャッタースピードが［AUTO］より速くなるので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。［AUTO-HI］のISO 感度の上限は、セットアップメニューで設定します。（☞P.160）
ISO感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］、［AUTO-HI］以外を選択します。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.77）を参照して操作してください。

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 ISO感度のメニューが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

1 いろいろな撮影

メモ

- ISO感度を［AUTO］に設定しているときにフラッシュを使用すると、最大ISO400相当の感度になります。画像サイズが3648×2736で、ISO感度を［AUTO］に設定してフラッシュを使用しない場合、ISO感度は80～200の間で変動します。
- ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ISO感度を［AUTO］または［AUTO-HI］に設定している場合、シャッターボタン半押し時にISO感度が表示されますが、実際のISO感度とは異なる場合があります。（フラッシュ使用時など）

撮影設定メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化）

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.77を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［撮影設定初期化］を選び、▶側に押す

- 確認のメッセージが表示されます。

3 ［はい］が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。

メモ

電源をオフにしても設定値が保持される機能については、付録を参照してください。（☞P.210）

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

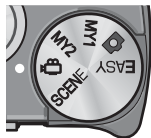
動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。
画像サイズは、640×480または320×240から選択できます。
また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレーム、15フレームのいずれかが選択できます。
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

1 モードダイヤルを動画に合わせる

2 シャッターボタンを押して動画撮影を開始する

- 次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

3 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する

注意

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1回あたりの撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります。（☞P.114）また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルを動画に合わせると、手ブレ補正の表示が消えます。

メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます（最大4.0倍まで）。（☞P.36）
- 手順2でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 動画の画像サイズやフレーム数は、撮影設定メニューで設定します。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。（☞P.75）
- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。長時間撮影される場合は、充分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- 長時間撮影される場合は、充分に空き容量のある高速 SD メモリーカードのご使用をお勧めします。

フレーム数を設定する（フレームレート）

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数（フレームレート）を設定します。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

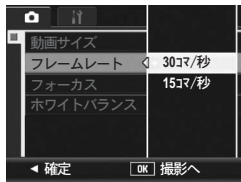
2 MENUボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［フレームレート］を選び、▶側に押す

4 ▲▼側に押して、［30コマ／秒］または［15コマ／秒］を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

動画のフレーム

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

メモ

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録可能時間の合計の目安は、以下のとおりです。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。

	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB
640×480（15コマ／秒）	1分22秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒	394分53秒
640×480（30コマ／秒）	41秒	11分59秒	24分23秒	50分10秒	97分55秒	199分49秒
320×240（15コマ／秒）	2分40秒	46分19秒	94分11秒	193分41秒	378分2秒	771分25秒
320×240（30コマ／秒）	1分22秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒	394分53秒

動画を再生する

動画を再生するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、見たい動画にする

- ▶側に押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀側に押すと、1つ前のファイルを表示できます。
- ▲側に押すと、10 コマ前のファイルを表示します。
- ▼側に押すと、10 コマ後ろのファイルを表示します。

3 ADJ./OKボタンを押す

- 再生が始まります。
  画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中にズームレバーを[T]側に回す
巻き戻し	再生中にズームレバーを[W]側に回す
一時停止／再生	ADJ./OKボタンを押す
スロー再生	一時停止中にズームレバーを[T]側に回し続ける
スロー戻し	一時停止中にズームレバーを[W]側に回し続ける
次のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを[T]側に回す
前のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを[W]側に回す
音量を調節する	再生中にADJ./OKボタンを▲▼側に押す

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

再生設定メニューについて

再生モードでMENUボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
画像クリップ〔設定〕	――――	P.118
画像クリップ〔再生〕	――――	P.120
画像サイズ変更	1280、640	P.121
トリミング	――――	P.122
レベル補正	AUTO、MANUAL	P.124
ホワイトバランス補正	――――	P.127
斜め補正	――――	P.129
プロテクト	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.131
スライドショー	――――	P.134
カードへコピー	――――	P.135
DPOF	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.136
ファイル復元	――――	P.139

メモ

再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(☞P.149)

メニューの操作方法

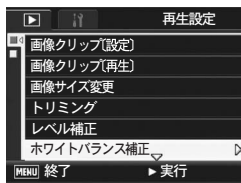
1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

設定画面が2画面あることを示しています。

3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。
- 一番下の項目でADJ./OKボタンを▼側に押すと、次の設定画面が表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

画面の切り替え --

ADJ./OKボタンを◀側に押すと、画面左のタブが選択できる状態になります。
（この画面でDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。）

- ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、画面を切り替えます。
- ADJ./OKボタンを▶側に押すと、項目を選択する状態に戻ります。

すぐに表示させたい画像を登録する（画像クリップ〔設定〕）

旅先でメモとして撮影した電車の時刻表や地図など、すぐに呼び出したいファイルを［画像クリップ〔設定〕］で登録しておくと、再生時にFn（ファンクション）ボタンですぐに表示することができます。[画像クリップ〔設定〕] では、3ファイルまで登録することができます。

1ファイルずつ登録／解除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、登録または解除したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［画像クリップ〔設定〕］を選び、▶側に押す

- ［画像クリップ〔設定〕］画面が表示されます。

5 登録したい場合は［登録］、解除したい場合は［解除］が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- 登録すると、画面にマークが表示されます。
- すでに3ファイルを登録している場合は、それ以上登録できません。

メモ

静止画の場合は、拡大表示した状態で登録すると、拡大倍率と拡大個所が保持され、同じ状態で呼び出すことができます。

複数のファイルを一度に登録／解除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ズームレバーを⊞（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、登録または解除したい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[画像クリップ〔設定〕]を選び、▶側に押す

- 登録すると、ファイルにマークが表示されます。
- すでに 3 ファイルを登録している場合は、それ以上登録できません。

6 ▲▼◀▶側に押して、次に登録または解除したいファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

7 手順6を繰り返して、登録または解除したいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態で ADJ./OK ボタンを再度押してください。

8 DISP.ボタンを押す

注意--

- [画像クリップ〔設定〕] で登録したファイルの名前をパソコンで変更した場合は、[画像クリップ〔設定〕] の登録は解除されます。
- 内蔵メモリーの内容をSDカードへコピーした場合は、内蔵メモリーでの [画像クリップ〔設定〕] の登録は解除されます。
- SDメモリーカード内のファイルを [画像クリップ〔設定〕] で登録すると、SDメモリーカード内に [CLIPINFO] フォルダおよびCLIP.CLIファイルが作成されます。これらを削除した場合、[画像クリップ〔設定〕] の登録はすべて解除されます。
- 撮影したファイルの名前をパソコンで変更した場合、[画像クリップ〔設定〕] で登録できない場合があります。
- [画像クリップ〔設定〕] で登録できるのは、本カメラで撮影した画像のみです。

[画像クリップ〔設定〕]の登録画像を呼び出す（画像クリップ〔再生〕）

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 Fn（ファンクション）ボタンを押す、または再生設定メニューから［画像クリップ〔再生〕］を選び、ADJ./OK ボタンを▶側に押す

- ［画像クリップ〔設定〕］で登録したファイルのうち、ファイル番号が一番小さいファイルが表示されます。
- 静止画の場合は、ズームレバーで画像を拡大/縮小することができます。また、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して拡大個所を移動することができます。ここで変更した拡大倍率や拡大個所は保持され、次回も同じ状態で表示されます。
- この状態でシャッターボタンまたは▶ボタンを押すと、撮影モードになります。
- ［画像クリップ〔設定〕］でファイルを登録していない場合は、メッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。

3 必要に応じて、Fnボタンを押す

- ［画像クリップ〔設定〕］で複数のファイルを登録した場合は、Fnボタンを押すと、ファイル番号が小さい順に表示されます。

メモ--

登録ファイルを等倍表示しているときに、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押すと、前の画像/次の画像を表示することができます。

画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F3648／N3648／F3:2／F1:1／N3264／N2592／N2048	N1280	N640
N1280	N640	

注意

画像サイズ変更ができるのは、静止画のみです。動画は画像サイズ変更できません。

メモ

- ［F3:2］の画像は、横と縦の比率が 3:2 です。この画像をリサイズした場合、上下に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- ［F1:1］の画像は、横と縦の比率が同じです。この画像をリサイズした場合、左右に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- 撮影時に画像サイズを変更することができます。（☞P.79）

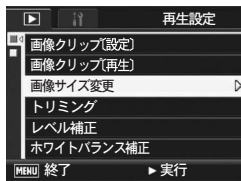
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、画像サイズを変更したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［画像サイズ変更］を選び、▶側に押す

再生設定
画像クリップ〔設定〕
画像クリップ〔再生〕
画像サイズ変更
トリミング
レベル補正
ホワイトバランス補正
MENU 終了　▶実行

5 ▲▼ 側に押して、［1280］または［640］を選ぶ

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、画像サイズ変更後の記録されます。変更前の画像も残ります。

静止画をトリミングする（トリミング）

撮影した静止画をトリミングし、別のファイルとして記録することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、トリミングしたいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[トリミング] を選び、▶側に押す

- [トリミング] 画面が表示されます。
- トリミングをキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。

5 ズームレバーを🔍側や▦側に回して、トリミング枠の大きさを指定する

6 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、トリミング枠の位置を指定する

7 ADJ./OKボタンを押す

- トリミング後の画像が記録されます。トリミング前の画像も残ります。

注意--

- トリミングできるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、トリミングできません。
- [デュアルサイズ記録] を [ON] にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが [N640[VGA]] 未満のサブファイルは、トリミングできません。(☞P.98、161)
- トリミングは繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

メモ--

- トリミングすると、画像の圧縮率はすべてNormalになります。
- 指定できるトリミング枠の大きさは、元画像のサイズによって異なります。ズームレバーを🔍側に回すたびにトリミング枠は1段階小さくなり、最小で13段階まで指定できます。

- トリミング後の画像サイズは、元画像のサイズと、トリミングの段階（トリミング枠の大きさ）によって決まります。下記の表を参照してください。（[トリミング］画面で最初に表示されるトリミング枠は、2段階目です。ズームレバーを■側に回すと、1段階目の枠（最大枠）になります。）

元画像のサイズ	トリミングの段階	トリミング後の画像サイズ
3648×2736	1	3264×2448
	2、3	2592×1944
	4、5	2048×1536
	6～9	1280×960
	10～13	640×480
3648×2432（*1）	1	3264×2448
	2	2592×1944
	3～5	2048×1536
	6～9	1280×960
	10～13	640×480
2736×2736（*2）	1	2592×1944
	2～4	2048×1536
	5～8	1280×960
	9～12	640×480
3264×2448	1、2	2592×1944
	3～5	2048×1536
	6～8	1280×960
	9～13	640×480
2592×1944	1	2592×1944
	2、3	2048×1536
	4～7	1280×960
	8～12	640×480
2048×1536	1、2	2048×1536
	3～6	1280×960
	7～10	640×480
1280×960	1～3	1280×960
	4～8	640×480
640×480	1～4	640×480

（*1）［F3:2］の画像は、横と縦の比率が3:2ですが、トリミングをすると4:3の比率の画像になります。

（*2）［F1:1］の画像は、横と縦の比率が同じですが、トリミングをすると4:3の比率の画像になります。

画像の明度、コントラストを補正する（レベル補正）

撮影した静止画の明度、コントラストを［AUTO］または［MANUAL］で補正して記録することができます。［MANUAL］では、ヒストグラムを調整しながら画像を補正します。

メモ---

ヒストグラム表示の詳細については、P.62を参照してください。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、補正したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［レベル補正］を選び、▶側に押す

オートで補正する（AUTO）

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、［AUTO］を選び、▶側に押す

- ［レベル補正］画面が表示されます。左上に元画像、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。

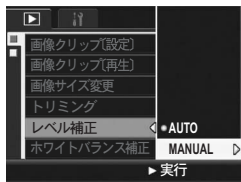
6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

3 いろいろな再生

マニュアルで補正する（MANUAL）

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、[MANUAL] を選び、▶側に押す

- [レベル補正]画面が表示されます。左上に元画像、左下にヒストグラム、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。

6 MENU ボタンを押して、ヒストグラム下のポイントを切り替える

- ヒストグラムの縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い)、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を表しています。MENUボタンを押すたびに、左端、真中、右端のポイントを切り替えることができます。

ポイント

7 ADJ./OKボタンを◀▶側に押して、ポイントの位置を調整し、画像を補正する

- 左右のポイントの位置を移動すると、真中のポイントも移動します。

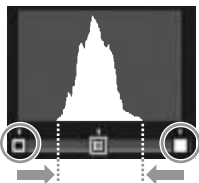
補正方法例

- 例1）画像の全体的な明るさを調整したい場合：
  真中のポイントを選択して左に移動すると、画像が全体的に明るくなります。
  真中のポイントを右に移動すると、画像が全体的に暗くなります。

3 いろいろな再生

- 例 2）露出オーバーまたは露出アンダーの画像を補正したい場合：
  露出オーバーの場合は、左側のポイントを右に移動し、ヒストグラムの山の左端に合わせます。
  露出アンダーの場合は、右側のポイントを左に移動し、ヒストグラムの山の右端に合わせます。
  この状態で真中のポイントを左右に調整すると、全体的な明るさを調整することができます。

露出オーバーの場合

- 例3）画像のコントラストをはっきりさせたい場合：
  コントラストのはっきりしない画像の場合、ヒストグラムの山は中央寄りに集中しています。左右のポイントを移動してそれぞれヒストグラムの山の両端に合わせると、明るい部分と暗い部分がはっきりした画像になります。
  この状態で真中のポイントを左右に調整すると、全体的な明るさを調整することができます。

8 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

注意--

- レベル補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、レベル補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- ［デュアルサイズ記録］を［ON］にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが［N640[VGA]］未満のサブファイルはレベル補正することはできません。（☞P.98、161）
- レベル補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

画像の色調を補正する（ホワイトバランス補正）

撮影した静止画の色調を、グリーン、マゼンタ、ブルー、アンバーそれぞれの色合いに補正して記録することができます。

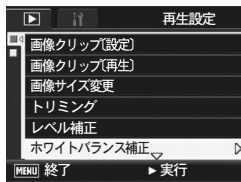
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、補正したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

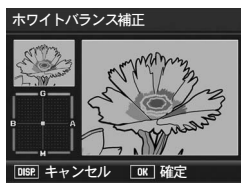
- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［ホワイトバランス補正］を選び、▶側に押す

- ［ホワイトバランス補正］画面が表示されます。左上に元画像、左下にホワイトバランス補正マップ、右に補正画像が表示されます。
- ホワイトバランス補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。

5 ADJ./OK ボタンを▲▼◀▶側に押して、ホワイトバランス補正マップのポイントの位置を調整し、色調を補正する

- ▲▼◀▶側に押すと、ホワイトバランス補正マップのポイントが移動します。[G] はグリーン、[A] はアンバー、[M] はマゼンタ、[B] はブルーを示し、ポイントの動きに合わせて、それぞれの色合いの色調に補正されます。
- ホワイトバランス補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- 補正中の色調をリセットしたい場合は、🗑ボタンを押します。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

注意 --

- ホワイトバランス補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、ホワイトバランス補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- ［デュアルサイズ記録］を［ON］にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが［N640[VGA]］未満のサブファイルはホワイトバランス補正することはできません。（☞P.98、161）
- ホワイトバランス補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

斜めから撮影した画像を補正する（斜め補正）

斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、斜め補正したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［斜め補正］を選び、▶側に押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。

- 別の補正エリアを選択する場合は、ADJ./OKボタンを▶側に押して、目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、ADJ./OKボタンを▲側に押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

5 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意 --

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、斜め補正することはできません。
- ［デュアルサイズ記録］を［ON］にしてサブファイル付き画像を撮影した場合、画像サイズが［N640[VGA]］未満のサブファイルは斜め補正できません。（☞P.98、161）

メモ

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.121）、処理速度を早くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

画像サイズ	補正時間
3648×2736	約48秒
3264×2448	約39秒
2592×1944	約25秒
2048×1536	約15秒
1280×960	約6秒
640×480	約2秒

- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。（☞P.44）

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

注意---

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1ファイルをプロテクトする

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、プロテクトしたいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［プロテクト］を選び、▶側に押す

5 ［1ファイル］が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ---

プロテクトを解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべてのファイルをプロテクトする

すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［プロテクト］を選び、▶側に押す

4 ▲▼側に押して、［全ファイル］を選ぶ

5 ［選択］が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ

すべてのプロテクトを解除するには、手順5で［解除］を選択します。

3 いろいろな再生

複数のファイルを一度にプロテクトする

選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ズームレバーを▦（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［プロテクト］を選び、▶側に押す

- ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。

6 ▲▼◀▶側に押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

7 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態で ADJ./OK ボタンを再度押すとプロテクトを解除できます。

8 DISP.ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ--

- 複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択してDISP.ボタンを押します。
- 一度にすべてのプロテクトを解除することもできます。（☞P.132）

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［スライドショー］を選び、▶側に押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。
中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。

メモ

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする（カードへコピー）

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

1 電源をオフにする

2 SDメモリーカードをセットする

3 電源をオンにする

4 ▶（再生）ボタンを押す

5 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

6 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[カードへコピー] を選び、▶側に押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。

メモ

- コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、[はい] を選んでADJ./OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、[いいえ] を選んでADJ./OKボタンを押してください。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。
- 内蔵メモリーの内容をSDカードへコピーした場合は、内蔵メモリーでの［画像クリップ〔設定〕］の登録は解除されます。

プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。
DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。複数の画像にDPOF設定を行って、印刷枚数を指定することもできます。

表示している静止画にDPOF設定する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、設定したい静止画を表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[DPOF] を選び、▶側に押す

5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ

DPOF設定を解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべての静止画にDPOF設定する

すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[DPOF] を選び、▶側に押す

4 ▲▼側に押して、[全ファイル] を選ぶ

5 [選択] が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

すべてのDPOF設定を解除するには、手順5で［解除］を選択します。

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、DPOF設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ズームレバーを▦（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ

4 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[DPOF] を選び、▶側に押す

6 ▲▼側に押して、印刷枚数を指定する

- ▲側に押すと枚数が増え、▼側に押すと枚数が減ります。

7 ◀▶側に押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ

8 ▲▼側に押して、印刷枚数を指定する

- ▲側に押すと枚数が増え、▼側に押すと枚数が減ります。

9 手順7～8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する

10 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ

- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を［0］に指定してADJ./OKボタンを押します。
- 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。（☞P.137）

3 いろいろな再生

削除したファイルを復元する（ファイル復元）

削除したすべてのファイルを、元の状態で復元することができます。
ただし、以下の操作を行うと、それ以前に削除したファイルは復元することができなくなります。

- 電源を切る
- 再生モードから撮影モードに切り替える
- DPOF、画像サイズ変更、カードへコピー、斜め補正、レベル補正、ホワイトバランス補正、トリミングを行う
- DPOF設定したファイルを削除する
- 内蔵メモリーまたはSDメモリーカードを初期化する
- 再生モードでカメラメモを変更する
- ［画像クリップ〔設定〕］で登録または解除を行う
- ［画像クリップ〔設定〕］の登録画像の拡大倍率や拡大個所を変更する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［ファイル復元］を選び、▶側に押す

- 復元を確認する画面が表示されます。
- 復元するファイルがない場合は、確認のメッセージが表示されます。

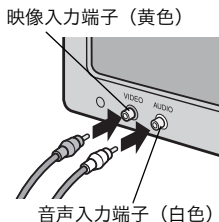
4 ▶側に押して［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押す

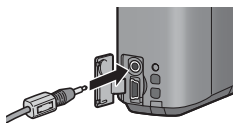
- ファイルが元の状態ですべて復元されます。

テレビの画面で見る

撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には画像モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るには、次のように操作します。

1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかり接続する

- AV　ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 AV出力端子にAVケーブルをしっかり接続する

4 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

5 POWER（電源）ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを長押しして、電源をオンにする

注意

- AVケーブルで本機を接続している間は画像モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AVケーブルは無理に差し込まないでください。
- AVケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AVケーブルの使用中は、AVケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

- ビデオのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器での再生方式はNTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、カメラのセットアップメニューでPAL方式に設定してから接続してください。（☞P.179）

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意

動画（.AVI）は印刷できません。

メモ

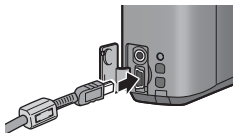
- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターがPictBridgeに対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。
- 自動的にカメラの電源がオンになります。

メモ---

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してからUSBケーブルを外してください。

注意---

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

静止画を印刷する

PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。

注意

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。

メモ

- 送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。
- プリンターに接続しているのに、パソコン接続のメッセージが表示された場合は、再接続を行い、接続後2秒以内にADJ./OKボタンを押してください。

1枚またはすべての静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち...］画面が表示されます。

2 ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、印刷したい静止画を表示する

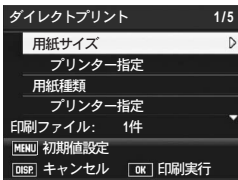
4 ADJ./OKボタンを押す

5 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、［1ファイル］または［全ファイル］を選ぶ

6 ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

7 ADJ./OK ボタンを▲▼側に押して項目を選び、▶側に押して詳細項目を表示する

- [接続中・・・] と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると[接続中・・・]が消え、[ダイレクトプリント] と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。

項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップメニューの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。(☞P.148)
帳票カメラメモ印字※	カメラメモが付いた画像を帳票印刷するときに、カメラメモの内容を帳票に印刷できます。(☞P.148) [帳票印刷] で選択されたレイアウトによっては、カメラメモ印字が欠ける場合があります。その場合は、カメラメモの文字数を減らしてください。
印刷部数	印刷部数を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面／両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は1枚となります。P.147の手順6で印刷枚数を複数枚設定しても、1枚のみ印刷されます。

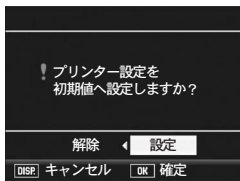
※各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。

8 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して詳細項目を選び、ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目を設定する

メモ

- 手順 7 の画面で MENU ボタンを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面が出たら、ADJ./OKボタンを◀▶側に押して［設定］を選び、ADJ./OKボタンを押してください。
- ［解除］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。

10 ADJ./OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち. . . ］画面が表示されます。

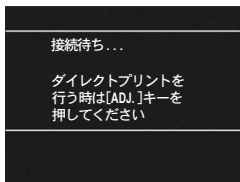
2 ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ズームレバーを⊞（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、静止画が一覧表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

6 **ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、印刷枚数を指定する**

- ▲側に押すと枚数が増え、▼側に押すと枚数が減ります。

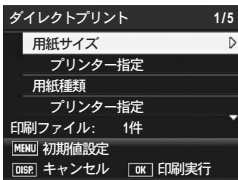
7 **◀▶側に押して、次に印刷したい静止画を選ぶ**

8 **▲▼側に押して、印刷枚数を指定する**

9 **手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する**

10 **ADJ./OKボタンを押す**

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 **ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して項目を選び、▶側に押して詳細項目を表示する**

- ［接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、［ダイレクトプリント］と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目については、P.145をご覧ください。

12 **ADJ./OKボタンを▲▼側に押して詳細項目を選び、ADJ./OKボタンを押す**

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 **手順11と12を繰り返して、変更したい項目を設定する**

14 **ADJ./OKボタンを押す**

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

メモ

- プリンターのマーク（ ）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

帳票印刷する

ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定してください。[帳票印刷]は、メニュー画面で[用紙サイズ]を[A4]に設定したあと、PictBridgeに対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ、有効です。
選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト例

1コマ罫線あり	2コマ罫線あり	3コマ罫線あり	4コマ罫線あり
1コマ罫線なし	2コマ罫線なし	3コマ罫線なし	4コマ罫線なし
工事写真1	記事欄付1	追加帳票1～10	

帳票印刷の例

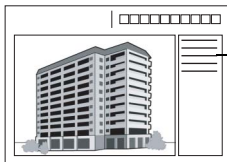
1コマ罫線あり

2コマ罫線あり

工事写真1

帳票印刷にカメラメモを印字する

ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定し、[帳票カメラメモ印字]を[ON]にすると、帳票印刷にカメラメモを付けて印刷できます。

帳票カメラメモ印刷の例

カメラメモの内容が印刷されます。印刷される位置は、[帳票印刷]で設定したレイアウトによって異なります。

記事欄付1

メモ

カメラメモについては、『使用説明書(ソフトウェア編)』をご覧ください。

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー（☞P.74）や再生設定メニュー（☞P.116）からセットアップメニューを表示して､カメラの設定変更ができます。セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
初期化〔カード〕	――――	P.152
初期化〔内蔵メモリー〕	――――	P.153
画像モニター輝度調節	――――	P.154
マイセッティング登録	MY1、MY2	P.155
ステップズーム	ON、[OFF]	P.157
Fnボタン設定	OFF、[ターゲット移動]、AEロック、ステップズーム、AT-BKT、CL-BKT、WB-BKT、最小絞り	P.158
ISO AUTO-HI 設定	[AUTO 400]、AUTO 800、AUTO1600	P.160
サブファイルサイズ	1280[1M]、640[VGA]、480、[320[QVGA]]	P.161
操作音	[すべて]、水準器音、シャッター音	P.162
操作音音量設定	□□□（なし)、■□□（小)、[■■□]（中)、■■■（大)	P.163
画像確認時間	OFF、[0.5秒]、1秒、2秒、3秒、HOLD	P.164
デジタルズーム切替	[通常]、オートリサイズ	P.165
ADJ.ボタン設定1*1 ADJ.ボタン設定2*2 ADJ.ボタン設定3*3 ADJ.ボタン設定4*4	OFF、[露出補正] *1、[ホワイトバランス] *2、[ISO] *3、[画質] *4、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正、最小絞り	P.167
水準器設定	OFF、[表示のみ]、表示＋音、音のみ	P.168
AF補助光	[ON]、OFF	P.169
オートパワーオフ	OFF、[1分]、5分、30分	P.170
画像モニター節電	[ON]、OFF	P.171
マクロ最短撮影距離	[表示]、非表示	P.172

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
縦横自動回転再生	［ON］、OFF	P.173
カード連続NO.	ON、［OFF］	P.175
日時設定	――――――	P.177
Language／言語※	日本語、English	P.178
ビデオ方式※	NTSC、PAL	P.179

※初期設定は、仕向け地によって異なります。

メモ---

撮影モードでモードダイヤルをEASYに合わせている場合は、セットアップメニューの項目数、表示順が他の撮影モード時とは異なります。各設定内容は、他の撮影モード時と同じです。
また、イージー撮影モード時の［Fnボタン設定］は、［OFF］、［マクロターゲット］、［逆光補正］から選択できます。

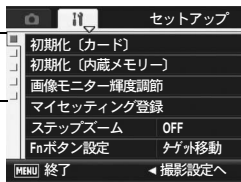
セットアップメニューの操作方法

本文中では、メニュー選択確定の操作（以下手順6）は「ADJ./OKボタンを押す」と説明していますが、ADJ./OKボタンを◀側に押しても、設定が確定してメニュー画面に戻ります。

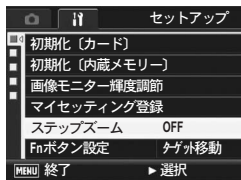
1 MENUボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ADJ./OKボタンを▶側に押す

- セットアップメニューが表示されます。
- シーンモードの場合は、ADJ./OKボタンを▲側に1回または2回押し、［MODE］タブを選択します。その後▶側に2回押すと、セットアップメニューが表示されます。

設定画面が5画面あることを示しています。

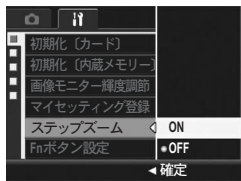
3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。
- 一番下の項目でADJ./OKボタンを▼側に押すと、次の設定画面が表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

5 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、選択肢を選ぶ

6 ADJ./OKボタンを押す

- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。
- 手順6でADJ./OKボタンを◀側に押すと、設定が確定して手順3の画面に戻ります。

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

画面の切り替え ---

ADJ./OKボタンを◀側に押すと、画面左のタブが選択できる状態になります。
（この画面でDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。）

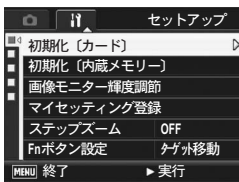
- ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、画面を切り替えます。
- ADJ./OKボタンを▶側に押すと、項目を選択する状態に戻ります。

SDメモリーカードを使えるようにする（初期化〔カード〕）

［使用できないカードです。］等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンや他のデジタルカメラで使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。
初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。

注意 --
画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［初期化〔カード〕］を選び、▶側に押す
- 初期化の確認画面が表示されます。

3 ◀▶ 側に押して［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押す
- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SDメモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

誤って画像を消さないようにするには --
カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります（☞P.26）。「LOCK」を解除する（スイッチを元の状態に戻す）と、撮影や削除、初期化が可能な状態に戻ります。

内蔵メモリーを初期化する（初期化〔内蔵メモリー〕）

［内蔵メモリーを初期化してください。］というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。

注意

内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されている画像はすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。（☞P.135）

1 セットアップメニューを表示する

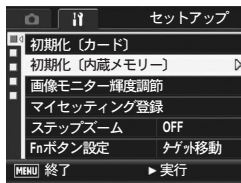
- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［初期化〔内蔵メモリー〕］を選び、▶側に押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

3 ◀▶側に押して［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

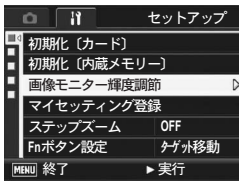
4 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

画像モニターの明るさを調節する（画像モニター輝度調節）

画像モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［画像モニター輝度調節］を選び、▶側に押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。

3 ▲▼側に押して、明るさを調節する

- 画像モニター輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。
- 輝度調節をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押すと、設定がキャンセルされ、撮影設定メニューに戻ります。

4 設定したい明るさになったら、ADJ./OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

メモ

セットアップメニューで［画像モニター節電］を［ON］に設定する（☞P.171）と、画像モニターを点灯した状態で約5秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターの輝度が落ちます。その場合、カメラを動かすか、いずれかのボタン押すと元に戻ります。

自分好みの設定を登録する（マイセッティング登録）

マイセッティング機能を使うと、簡単に自分好みの設定で撮影することができます。
マイセッティングは2種類登録できます。モードダイヤルをMY1に合わせると、［MY1］で登録した設定で撮影できます。モードダイヤルをMY2に合わせると、［MY2］で登録した設定で撮影できます。（☞P.42）
現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

1 **マイセッティングとして登録したい内容に、カメラの設定を変更する**

2 **セットアップメニューを表示する**

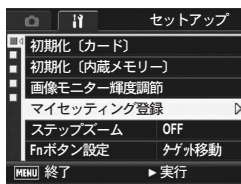
- 操作手順は、P.150を参照してください。

3 **ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［マイセッティング登録］を選び、▶側に押す**

- 確認のメッセージが表示されます。

4 **◀▶側に押して、［MY1］または［MY2］を選び、ADJ./OK ボタンを押す**

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP.ボタンを押してください。

5 **MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す**

［マイセッティング登録］で保持される内容

撮影モード（📷/🎥/MY1/MY2/SCENE）
画質・サイズ
フォーカス
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
測光
連写
画像設定
フラッシュ調光補正
オートブラケット
CL-BKT
WB-BKT
長時間露光
デュアルサイズ記録
カスタムセルフ
最小絞り固定
手ブレ補正
スローシャッター速度制限
日付入れ撮影
露出補正
ホワイトバランス
ISO感度
ズーム位置
マクロ
フラッシュモード
シーンモード
セルフタイマー
DISP.モード
ステップズーム
サブファイルサイズ
デジタルズーム切替
水準器設定
マクロ最短撮影距離
文字濃度
フレームレート

ズームの焦点距離を固定する（ステップズーム）

ズームの焦点距離を、7段階（28mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mm相当*）に固定する設定をステップズームといいます。

* 35mm判カメラ換算値です。

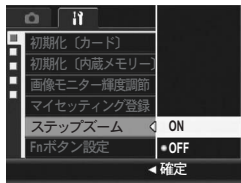
設定
ON（ステップズームを使用する）
OFF（ステップズームを使用しない）※購入時の設定

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［ステップズーム］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［ON］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- マクロモード時、ステップズームの焦点距離は35mmフィルムカメラ換算でおよそ32mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mmになります。
- ［Fnボタン設定］で［ステップズーム］を設定する（☞P.158）と、Fn（ファンクション）ボタンでステップズームのオン／オフを切り替えることができます。（☞P.73）

Fn（ファンクション）ボタンに機能を登録する（Fnボタン設定）

Fnボタンに機能を登録すると、Fnボタンを押すだけで色々な機能を切り替えることができます。
Fnボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。Fnボタンの操作方法は、各参照先を参照してください。

モードダイヤルが📷のとき

設定	内容	参照先
ターゲット移動 ※購入時の設定	AEとAFの両方、またどちらかのターゲットを移動する	P.70
AEロック	露出を固定する	P.72
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、最小絞り	各機能のオン／オフを切り替える	P.73

モードダイヤルがSCENEのとき

設定	内容	参照先
マクロターゲット ※購入時の設定	カメラを動かさずにAFターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.71
AEロック	露出を固定する	P.72
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、最小絞り	各機能のオン／オフを切り替える	P.73

メモ--

シーンモード別の設定可能項目は以下のとおりです。○以外の項目は、[Fnボタン設定]で登録はできますが、Fnボタンを押しても動作しません。

設定	ポートレート	フェイス	スポーツ	遠景	夜景	夜景ポートレート	高感度	ズームマクロ	斜め補正	文字
マクロターゲット	−	−	−	−	−	−	○	○	○	○
AEロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ステップズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AT-BKT	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
WB-BKT	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
CL-BKT	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
最小絞り	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−

モードダイヤルがEASYのとき

設定	内容	参照先
逆光補正 ※購入時の設定	逆光補正機能のオン／オフを切り替える	P.73
マクロターゲット	カメラを動かさずにAFターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.71

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[Fnボタン設定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5

カメラの設定を変える

ISO AUTO-HI の設定を変える（ISO AUTO-HI 設定）

撮影設定メニューの［ISO感度］で設定する［AUTO-HI］（高感度設定オート）（☞P.109）のISO感度の上限を変更することができます。

設定
AUTO 400　※購入時の設定
AUTO 800
AUTO1600

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［ISO AUTO-HI 設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ--

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

デュアルサイズ記録のサイズを変える（サブファイルサイズ）

サブファイル付き画像を撮影する際（☞P.98）の、オリジナル画像と同時に保存されるサブファイルのサイズを設定します。

設定
1280[1M]
640[VGA]
480
320[QVGA]　※購入時の設定

注意

オリジナルの［画像・サイズ］が［N1280[1M]］のとき、［サブファイルサイズ］で［1280[1M]］を選ぶと、サブファイルは作成されません。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［サブファイルサイズ］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

操作音の設定を変える（操作音）

カメラの操作中は、以下の5種類の操作音が鳴ります。

起動音	：カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音	：シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったときの音	：シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音	：実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。
水準器音	：［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定している場合（☞P.168）、撮影モードでカメラが水平状態のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

設定できる値	内容
すべて ※購入時の設定	すべて鳴らす
水準器音	水準器音のみ鳴らす
シャッター音	シャッター音、水準器音のみ鳴らす

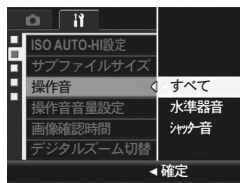
メモ

実行できない動作を行おうとしたときは、［操作音］の設定にかかわらず、警告音が鳴ります。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［操作音］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

操作音の音量を変える（操作音音量設定）

操作音の音量を変更できます。

設定
□□□（なし）
■□□（音量小）
■■□（音量中）※購入時の設定
■■■（音量大）

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[操作音音量設定]を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

[操作音音量設定]を[□□□]（なし）に設定している場合は、[水準器設定]を[表示＋音]または[音のみ]に設定しても（☞P.168)、水準器音は鳴りません。

画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には0.5秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

設定
OFF（確認のための表示を行わない）
0.5秒 ※購入時の設定
1秒
2秒
3秒
HOLD（次にシャッターボタンを半押しするまで、確認画像を表示し続ける）

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[画像確認時間] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ--

[HOLD] に設定すると、確認表示中の画像を拡大表示したり（☞P.53)、削除したり（☞P.54）することができます。

5

カメラの設定を変える

オートリサイズズームを使う（デジタルズーム切替）

撮影する画像から必要な部分を切り出して記録します。通常のデジタルズームは、設定した画像サイズまで画像の一部を拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは切り出した部分をそのまま記録するので、拡大による画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。

オートリサイズズームは、[画質・サイズ] を3648×2736に設定しているときのみ働きます。（☞P.79）

選択できる設定

設定	内容
通常 ※購入時の設定	通常のデジタルズームです。[画質・サイズ] で設定した画像サイズで記録します。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。

メモ---

[画質・サイズ] が3648×2736以外の場合は、デジタルズームが有効になります。

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

画像・サイズ	ズーム倍率	焦点距離（*）
3648×2736（10M）	1.0倍	200mm
3264×2448（8M）	1.1倍	220mm
2592×1944（5M）	1.4倍	280mm
2048×1536（3M）	1.8倍	350mm
1280×960（1M）	2.9倍	570mm
640×480（VGA）	5.7倍	1140mm

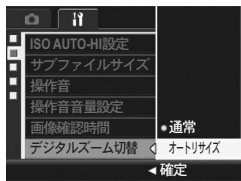
（*）35mm判カメラ換算値です。

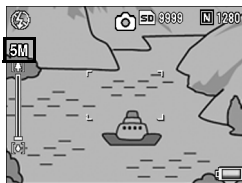
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[デジタルズーム切替] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[オートリサイズ] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 ズームレバーを [♠]（望遠）側に回し続け、ズームバー表示が[♠]側の端まできたらいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを[♠]側に回す

- さらにズームレバーを [♠] 側に回すごとに、1段階ずつ画像サイズが変更されます。
- 記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。

注意

- S 連写、M 連写、シーンモードの［斜め補正］の場合は、[オートリサイズ] に設定していてもデジタルズームが有効になります。
- 画質をFineモードに設定してオートリサイズズームを使用すると、記録時にNormalモードに変換されます。

ADJ./OKボタンに機能を設定する（ADJ.ボタン設定）

ADJ./OKボタンに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、少ないボタン操作で撮影に関するいろいろな設定画面を表示できます。
［ADJ.ボタン設定1］～［ADJ.ボタン設定4］で、ADJ./OKボタンを押して表示できる機能を登録します。
ADJ.モードの操作方法は、P.64を参照してください。

設定		参照先
OFF		－
露出補正	※購入時［ADJ.ボタン設定1］の設定	P.106
ホワイトバランス	※購入時［ADJ.ボタン設定2］の設定	P.107
ISO	※購入時［ADJ.ボタン設定3］の設定	P.109
画質	※購入時［ADJ.ボタン設定4］の設定	P.79
フォーカス		P.81
画像設定		P.89
測光		P.84
連写		P.85
オートブラケット		P.92
調光補正		P.91
最小絞り		P.100

［ADJ.ボタン設定1］～［ADJ.ボタン設定4］に機能を設定するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［ADJ.ボタン設定1］、［ADJ.ボタン設定2］、［ADJ.ボタン設定3］、［ADJ.ボタン設定4］のいずれかを選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

水準器の確認方法を設定する（水準器設定）

［水準器設定］をオンにすると、撮影する画像が水平かどうかを、水平インジケーターや水準器音で確認することができます。確認方法は以下の中から設定できます。撮影時の水準器の使用方法については、P.60を参照してください。

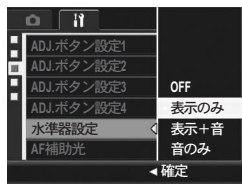
設定	内容
OFF	水平インジケーターは表示されません。水準器音も鳴りません。
表示のみ ※購入時の設定	水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。
表示＋音	水平インジケーターが表示され、カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。
音のみ	水平インジケーターは表示されません。カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。
- 撮影できる状態でDISP.ボタンを長押しした場合でも、設定画面を表示できます。DISP.ボタンを長押しした場合は手順3へ進んでください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して［水準器設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- 撮影時の水準器の使用方法については、P.60を参照してください。
- 動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- ［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても、水準器音は鳴りません。

AF補助光の設定を変える（AF補助光）

オートフォーカスでの撮影時に、AF補助光を発光するかしないかを設定できます。
［AF補助光］を［ON］に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光し、AF測距を行います。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［AF補助光］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

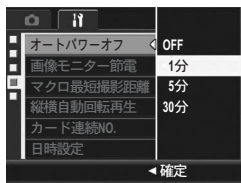
設定
OFF（オートパワーオフ機能は働きません）
1分 ※購入時の設定
5分
30分

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[オートパワーオフ] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- オートパワーオフによって電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、POWER（電源）ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを長押ししても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- オートパワーオフ機能は、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- インターバル撮影をするときは、[オートパワーオフ] の設定は無効になり、オートパワーオフ機能は働きません。

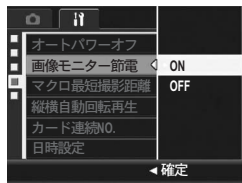
節電モードを設定する（画像モニター節電）

［画像モニター節電］を［ON］に設定すると、画像モニターを点灯した状態で約5秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターの輝度が落ちます。その場合、カメラを動かすか、いずれかのボタン押すと元に戻ります。購入時には［ON］に設定されています。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［画像モニター節電］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［ON］を選ぶ

注意 --

シンクロモニターモードの場合（☞P.58）は、［画像モニター節電］の設定は無効となります。

5

カメラの設定を変える

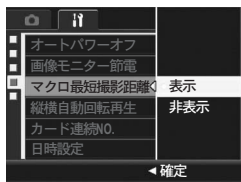
マクロ撮影時に最短撮影距離を表示する（マクロ最短撮影距離）

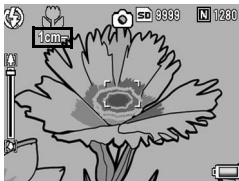
マクロ撮影時は、ズームの位置によって最短撮影距離が変わりますが、［マクロ最短撮影距離］を［表示］に設定すると、最短撮影距離を画像モニターに表示することができます。

1 **セットアップメニューを表示する**

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 **ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［マクロ最短撮影距離］を選び、▶側に押す**

3 **▲▼側に押して、［表示］を選ぶ**

4 **ADJ./OKボタンを押す**

- マクロモードにすると（☞P.37）、画面に最短撮影距離が表示されます。

再生画像の向きを自動補正する（縦横自動回転再生）

カメラの向きが撮影時と再生時で異なる場合に、再生画像の向きを自動補正するかどうか設定します。

設定	内容
ON　※購入時の設定	再生画像の向きを自動補正します。
OFF	再生画像の向きは補正しません。

［縦横自動回転再生］を［ON］に設定すると、再生画像の向きは以下のようになります。

カメラを横向きに置いて再生する場合：

　カメラを横にして撮影した画像は、そのままの向きで表示します。カメラを縦にして撮影した画像は、自動的に回転して縦に表示します。

カメラを縦向きに置いて再生する場合：

　カメラを縦にして撮影した画像は、そのままの向きで表示します。カメラを横にして撮影した画像、自動的に回転して横に表示します。

再生中にカメラの向きを変えた場合でも、再生画像はカメラの向きに応じて自動回転されます。

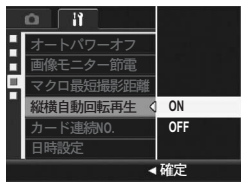
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して［縦横自動回転再生］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、値を設定する

4 ADJ./OKボタンを押す

5
カメラの設定を変える

注意

- 以下の場合は、[縦横自動回転再生] を [ON] に設定しても、再生画像は自動回転されません。
  - ・動画、S連写、M連写で撮影した画像
  - ・一覧表示の場合（☞P.52）
  - ・カメラを前後に傾け過ぎている状態で撮影した画像
  - ・カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にして撮影または再生した場合
  - ・拡大再生中にカメラの向きを変えた場合
  - ・再生モードで斜め補正処理中（補正エリアが表示されている）の画像（☞P.129）
- [縦横自動回転再生] を [ON] に設定しても、スライドショー、テレビ再生中は、カメラを横向きに置いているものと認識されます。カメラを縦向きに置いて再生しても、横向きで撮影した画像は自動回転されません。また、再生中にカメラの向きを変えても、再生画像は自動回転されません。

メモ

連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットで撮影した画像は、1枚目の画像の向きによって自動回転されます。

ファイル名の設定を変える（カード連続NO.）

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。
SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

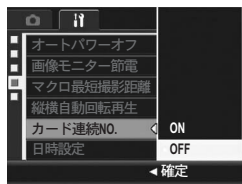
設定	
ON（連番にする）	撮影した静止画に、R0010001.jpg～R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを入れ替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない） ※購入時の設定	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg～RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 ファイル名がRIMG9999になると、それ以上は記録できません。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[カード連続NO.]を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合は、常に［カード連続 NO.］が［OFF］の場合と同様のファイル名になります。
- DL-10を使ってパソコンに転送する（☞P.191）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、［カード連続NO.］を［ON］に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（**** は番号）で保存されます。

注意

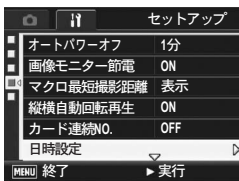
ファイル名がRIMG9999またはR9999999になると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してお使いください。

日付・時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［日時設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼◀▶側に押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼側に押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- ◀▶側に押すと、次の項目へ移動することができます。

4 ［書式］で日時の書式を選ぶ

5 画面の表示を確認し、ADJ./OK ボタンを押す

- 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。

6 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

メモ--

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

表示言語を変える（Language／言語）

画像モニターに表示される言語を変更することができます。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定
日本語
English（英語）

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［Language／言語］を選び、▶側に押す

- 言語選択画面が表示されます。

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

メモ--

日本国内で販売されているRICOH R10で選択できる言語は、日本語と英語のみです。

テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）

付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。（☞P.140）
テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値
NTSC
PAL

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.150を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［ビデオ方式］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- ビデオ方式が設定され、セットアップメニューに戻ります。

メモ

SECAM方式には対応していません。

画面の表示は、ご使用のパソコンのOSによって異なります。

Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.195をご覧ください。

画像をパソコンに取り込むには、以下の方法があります。

1　DL-10などの画像取り込みソフトウェアを使用して、画像を取り込む

DL-10を使用するには、付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールしておく必要があります（☞P.183）。DL-10で画像を取り込む場合は、以下の2種類の方法があります。

- 画像を一括取り込みする（☞P.191）
- カメラメモの内容によって画像を分類し、パソコンのフォルダに転送する（☞『仕様説明書（ソフトウェア編）』）

2　DL-10などの画像取り込みソフトウェアを使用せずに画像を取り込む（☞P.192）

注意--

本カメラからWindows 98/98 SEに画像を取り込むことはできません。

メモ--

画像をパソコンに取り込む方法の詳細については、CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.186を参照してください。

付属のCD-ROMを使うために必要な環境

付属のCD-ROMを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 2000 Professional Service Pack 4（日本語版） Windows Me（日本語版） Windows XP Home Edition Service Pack 2（日本語版）/Professional Service Pack 2（日本語版） Windows Vista Service Pack 1（日本語版）
CPU	Windows 2000/Me/XP：Pentium® III 500MHz以上 Windows Vista：Pentium® III 1GHz以上
メモリー	Windows 2000/Me/XP：256MB以上 Windows Vista：512MB以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB以上
ディスプレイの解像度	1024×768ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート

注意 --

- 64ビット版OSには対応していません。
- Windows 98/98 SEには対応していません。
- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OS のシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCIバスなど）を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

CD-ROMの構成

付属のCD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。

項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.183
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF）を表示することができます。	P.186
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.186
RICOH ホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	−
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	−
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	−

［ソフトウェアのインストール］をクリックする

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名		説明
DC Software	DL-10	画像をパソコンに一括取り込みします。
	List Editor	カメラメモリストを作成するときに使います。
Irodio Photo & Video Studio		撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。
USBドライバー		リコーの過去機種とWindows 98 SE/Me/2000を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIAドライバー		リコーの過去機種とWindows XP/Vistaを接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

注意

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- DC Softwareでは、従来機種に付属していたCaplio Softwareとはソフトウェアの名称が以下のように異なります。

Caplio Software	DC Software
RICOH Gate La	DL-10
List Editor	List Editor
Caplio Viewer	DU-10(*)
Caplio Server	SR-10(*)
Caplio Setting	ST-10(*)

(*)本カメラでは使用しません。

従来機種の付属CD-ROMからCaplio Softwareをインストールしていた場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、Caplio SoftwareをアンインストールしてからDC Softwareをインストールするようメッセージが表示されますので、メッセージに従ってください。
Caplio Viewer、Caplio Server、Caplio Settingがインストールされていた場合は、上記のソフトウェアに置き換わり、これまでと同様に使用できます。
メッセージが表示される前にCaplio Softwareをアンインストールした場合（☞P.190）は、DC Softwareをインストールしても、DU-10、SR-10、ST-10はインストールされません。

- Caplio Softwareをアンインストールすると、RCOH Gate Laの［オプション設定］の設定内容が解除される場合があります。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- DL-10はネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

メモ--

本機は、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアIrodio Photo & Video Studioを付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。
Irodio Photo & Video Studioについての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/）を参照してください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合
- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合
- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exeの実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows Vista以外のOSの場合
- しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

Windows Vistaの場合
- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の［許可］を選択してください。しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

3 言語を選択し、［OK］をクリックする

- ［DC Software用のInstallShield Wizardへようこそ］画面が表示されます。

4 ［次へ］をクリックする

- ［インストール先の選択］画面が表示されます。

5 インストール先を確認して［次へ］をクリックする

- ［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

6 プログラムフォルダを確認して［次へ］をクリックする

- 続けてIrodio Photo & Video Studioのインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。
  パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

- Irodio Photo & Video Studioのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

7 ［完了］をクリックする

- DC Softwareのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］を選択して、［完了］をクリックする

- パソコンが再起動します。
- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

9 DL-10の［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

メモ--

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（☞P.190）

[使用説明書（ソフトウェア編）を見る］をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を表示します。
すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。（☞P.187）

[CD-ROMの内容を見る］をクリックする

CD-ROM内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROMには、[ソフトウェアのインストール］をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、次のソフトウェアが収められています。Windows環境では、これらのソフトウェアをインストールできます。

ソフトウェア名	説明
Acrobat Reader	『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。
Ridoc Desk Navigator Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。

注意

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

メモ

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltについては、Ridoc Desk Navigator Ltに付属の『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。
- 「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内のIrodio Photo & Video Studio.exeをダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studioのみをインストールすることができます。

Acrobat Reader

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）を表示をするためのソフトウェアです。
Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

注意--

CD-ROMに同梱のAcrobat Readerは、Windows Vistaで使用すると警告が表示される場合があります。その場合は、アドビシステムズ社のホームページから最新版をダウンロードしてください。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exe の実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 ［Acrobat］フォルダをダブルクリックする

4 ［Japanese］フォルダをダブルクリックする

5 ［ar505jpn］（ar505jpn.exe）をダブルクリックする

- Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。［続行］を選択してください。

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

Ridoc Desk Navigator Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。

メモ

- Ridoc Desk Navigator Ltは日本国内向けのアプリケーションです。他の言語環境では使用できません。
  (Ridoc Desk Navigator Lt is only available in Japanese. Other languages are not supported.)
- Ridoc Desk Navigator Ltの使用方法については、Ridoc Desk Navigator Ltと同時にインストールされる『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- [Autorun.exe の実行] を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 [CD-ROMの内容を見る] をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Ridoc Desk] フォルダをダブルクリックする

4 [RDLaunch.exe] をダブルクリックする

5 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする

- インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。

注意 --

- Ridoc Desk Navigator Ltは、Ridoc Desk Navigator、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Desk 2000、Job Binderと共存することができません。Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする場合は、元のアプリケーションをアンインストールしてから行ってください。そのとき、元のアプリケーションで使用していたデータはそのまま保存され、引き続き使用することができます。ただし、元のアプリケーションがRidoc Desk 2000の場合、いくつかの機能が使用できなくなりますので、ご注意ください。
- カメラをパソコンに接続し、Ridoc Desk Navigator Ltを開いたままカメラの電源をオフ／オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意 --

- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

DC Software

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 ［設定］-［コントロールパネル］（XP、Vistaの場合は［コントロールパネル］）を選択する

3 ［アプリケーションの追加と削除］アイコン（XP の場合は［プログラムの追加と削除］アイコン）をダブルクリックする

4 ［DC Software］を選択し、［変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、［OK］をクリックする

- ［共有ファイルの検出］ダイアログが表示されます。

6 ［次回からこのメッセージを表示しない］のチェックボックスにチェックを入れて、［はい］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

Irodio Photo & Video Studio

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 ［設定］-［コントロールパネル］（XP、Vistaの場合は［コントロールパネル］）を表示する

3 ［アプリケーションの追加と削除］アイコン（XP の場合は［プログラムの追加と削除］アイコン）をダブルクリックする

4 ［Irodio Photo & Video Studio］を選択し、［変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、［OK］をクリックする

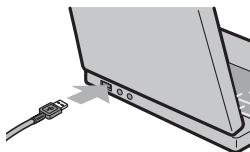
- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

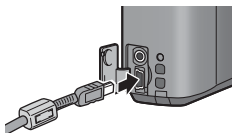
6 パソコンを再起動する

DL-10を使用して画像を一括取り込みする

ソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになり、必要なファイルが自動的に読み込まれます。

4 DL-10が起動して、自動的に画像の転送が開始される

- DL-10は[マイドキュメント]フォルダの中に自動的に[Digital Camera]フォルダを作成します。取り込んだ画像は、撮影日ごとのフォルダに入れて［Digital Camera］フォルダ内に保存されます（Caplio Softwareを使用していた場合は、引き続き［Caplio］フォルダ内に保存されます）。あらかじめカメラで正しい日時を設定してから撮影してください。

5 画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する（☞P.194）

メモ---

- DL-10 では、カメラメモの内容によって画像を分類し、パソコンのフォルダに転送することもできます。DL-10の使いかたについては、CD-ROM内の「使用説明書（ソフトウェア編）」（PDFファイル）をご参照ください。（☞P.186）
- 画像の転送が始まらない場合は、以下の操作をお試しください。
  - ・DL-10 のウィンドウの［保存］ボタンをクリックする（初めてカメラとパソコンを接続した場合のみ）
  - ・パソコンを再起動して1～5の操作をもう一度行う
  - ・DL-10の［オプション設定］ダイアログボックスで［USB接続時、自動保存を行う］にチェックマークが付いているか確認する

注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

DL-10を使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

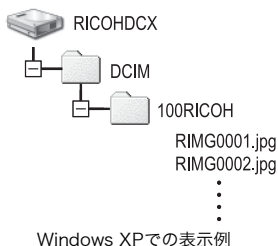
3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

Windows XPでの表示例

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、[マイコンピュータ] にドライブとして表示されます。

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

Windows XPでの表示例

注意

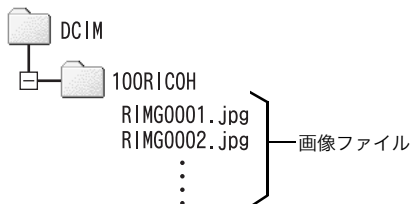
- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに取り込むか、取り込み先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

メモ

表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。

SDメモリーカードから画像を取り込む

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

Windows XPでの表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

接続されるパソコンのOSのタイプ、使用されるSDメモリーカードの容量に対応したカードリーダーをお使いください。

注意

カメラやカードリーダーをパソコンに接続し、SDメモリーカード内の画像を直接パソコンで表示・編集・保存などした場合、その画像がカメラで再生できなくなることがあります。表示・編集・保存などは、画像をパソコンに取り込んだ後に行ってください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください。（表示はWindows XPの例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。）

1 タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする

« 16:49

2 [USB大容量記憶装置デバイス] を選び、[停止] をクリックする

3 [USB 大容量記憶装置デバイス] が選ばれていることを確認して、[OK] をクリックする

4 [閉じる] をクリックする

5 USBケーブルを取り外す

メモ--

- 接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中に USB ケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintoshをご使用の場合

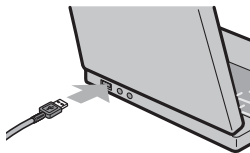
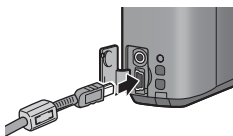
Windowsをご使用の場合はP.180をご覧ください。

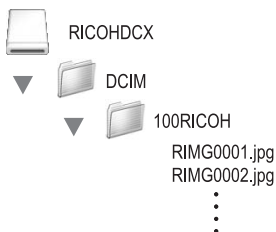
本カメラは、以下のOSに対応しています。
- Mac OS 9.0 ～ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ～ 10.5.2

注意 --
- 本カメラからMac OS 8.6に画像を取り込むことはできません。
- Macintoshでは、CD-ROMに含まれているソフトウェアを使用することはできませんが、『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示することは可能です（パソコンにAcrobatがインストールされている場合のみ）。

画像をパソコンに取り込む

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する
- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

注意 --

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USBケーブルを取り外す

メモ --

- Mac OS 9の場合は［特別］メニューで、Mac OS Xの場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintoshに接続すると、SDメモリーカードに「Finder .DAT/DS_Store」が書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。気になる場合は、SDメモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
カードを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.28
日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.177
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.175
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.25
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.131
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK(書き込み禁止)」されています。ロックを解除してください。	P.26
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル(動画など)です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.54 P.152 P.153
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	P.146
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.153
カードを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.152
使用できないカードです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.152
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
記録できません。	撮影可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.25
ファイル復元可能なファイルが見つかりません。	復元できるファイルがありません。	P.139

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.28 P.27 P.212
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.24
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.30
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす。	P.212
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.28
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.30
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.212
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.24
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.28 P.212
充電したばかりなのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.24
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいリチャージャブルバッテリーに交換する。	P.28
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	－	－
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	－	－

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.212
	電源が入っていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.30
	再生モードになっている。	▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.50
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.34
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.152
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.28 P.54
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.28
	フラッシュが充電中。	フラッシュモードのマークの点滅が終了するまで待つ。	P.39
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.26
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.164
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.30 P.154
	ビデオケーブル／AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル／AVケーブルを抜く。	ー
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.58
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	ー
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.34
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.34 P.82
ピントが合っていないのに、画像モニター中央に緑の枠が表示される。	被写体との距離が近すぎるため、疑合焦された。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.37

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。(マークが表示される)	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。 三脚を使用する。 手ブレ補正機能を使う。	P.32 P.103
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO感度を上げる。 手ブレ補正機能を使う。	P.39 P.109 P.103
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット • 連写モード • 動画モード また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている場合がある。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.39 P.92 P.93 P.95 P.85 P.112
	フラッシュが発光禁止になっている。	発光禁止を解除する。	P.39
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.212
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、フラッシュの光が届く範囲を超えている。	被写体に近づいて撮影する。ISO感度を変更する。	P.39 P.109
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.106
	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。	P.91
ADJ./OKボタンの機能が使用できない。	SDメモリーカードにカメラメモリストが保存されている。	SDメモリーカード内の［TEMPLATE］フォルダの*.mtaファイルを削除する。	ー
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。または、被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.39 P.91
	露出がオーバーしている。(［!AE］マークが表示される)	露出補正を行う。 長時間露光を解除する。	P.106 P.97
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.154
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	発光禁止を解除する。	P.39
	露出が不足している。	露出補正を行う。 長時間露光を設定する。	P.106 P.97
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.154

症状	原因	処置	参照先
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.107
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.58
AF動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	ー
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	ー
水平インジケーターが表示されない。	［水準器設定］を［OFF］または［音のみ］に設定している。	［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定する。	P.168
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP.ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.58
	カメラが上下逆さま(シャッターボタンが下向き）になっている。	カメラを正しく構える。	—
水平インジケーターの目盛りが真中を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	—
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	—

7

付録

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.50
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.140
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.179
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	−
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.28 P.152
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	−
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	−
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	−
画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.212
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.30
画面の一部が黒く点滅する。	画像に白飛びの部分があるため、ハイライト表示になっている。	直射日光を避ける、露出を−側に補正するなどして、撮り直すことをお勧めします。	P.59 P.106
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.131
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.26
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.26

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.28
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.212
	カメラの誤動作。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.30
		電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.28 P.212
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.177
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.177
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが[OFF]になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.170
操作音が鳴らない。	消音が設定されている。	[操作音音量設定]で音量なし以外を設定する。	P.163
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.179
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.140
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	ー

ソフトウェア／パソコンのトラブル

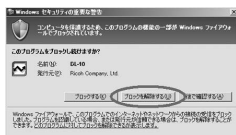
ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Windows XP Service Pack2、Windows Vistaでの警告メッセージについて

Windows XP Service Pack2またはWindows Vistaがインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下のような警告メッセージが表示される場合があります。以下を参考にしてください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

警告メッセージが表示されたら

1 名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

注意 --

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

［ブロックする］ボタンをクリックした場合

Windowsファイアウォールの設定を確認します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする

2 ［Windowsファイアウォール］をダブルクリックする

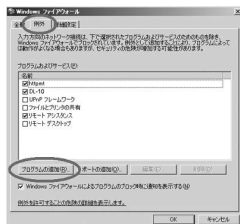
- ［Windowsファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。

7

付録

3 ［例外］タブをクリックする

4 ［プログラムおよびサービス］内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 ［プログラムの追加］ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する

［後で確認する］ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、［Windows セキュリティの重要な警告］ウィンドウが表示されるので、その際に［ブロックを解除する］を選択できます。

7

付録

主な仕様

カメラ部有効画素数		約1,000万画素
撮像素子		1/2.3型CCD（総画素数約1030万画素）
レンズ	焦点距離	4.95～35.4mm（35mm換算値28～200mm）
	F値	F3.3～F5.2
	撮影距離範囲	通常撮影：約30cm～∞（広角）、約1.0m～∞（望遠）（レンズ先端から）
		マクロ撮影：約1cm～∞（広角）、約25cm～∞（望遠）、約1cm～∞（ズームマクロ）（レンズ先端から）
	レンズ構成	7群10枚（非球面レンズ5面4枚）
ズーム倍率		光学ズーム7.1倍、デジタルズーム4.8倍、オートリサイズズーム約5.7倍（画像はVGA）
フォーカスモード		マルチAF（CCD方式）／スポットAF（CCD方式）／マニュアルフォーカス／スナップ／∞（AF補助光あり）
ブレ軽減機能		CCDシフト方式ブレ補正機能
シャッタースピード	静止画	8秒、4秒、2秒、1～1/2000秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります。）
	動画	1/30～1/2000秒
露出制御	測光モード	マルチ（256分割）／中央重点測光／スポット測光（TTL-CCD測光式）
	露出制御モード	プログラムAE
	露出補正	マニュアル補正（+2.0～–2.0EV 1/3EVステップ）、オートブラケット機能（–0.5EV、±0、+0.5EV）
ISO感度（標準出力感度）		AUTO ／ AUTO-HI ／ ISO 80 ／ ISO 100 ／ ISO 200 ／ ISO 400／ISO 800／ISO 1600
ホワイトバランスモード		オート／屋外／曇天／白熱灯／白熱灯2／蛍光灯／手動設定、ホワイトバランスブラケット機能
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ／発光禁止
	調光範囲	約20cm～3.0m（広角）、約25cm～2.0m（望遠）（ISO AUTO／ISO 400、レンズ先端から）
	調光補正	±2.0EV 1/3EVステップ
画像モニター		3.0型 透過型アモルファスシリコンTFT液晶、約46万ドット
撮影モード		オート撮影モード／イージー撮影モード／シーンモード（ポートレート／フェイス／スポーツ／遠景／夜景／夜景ポートレート／高感度／ズームマクロ／斜め補正／文字）／マイセッティングモード／動画モード
画質モード[*1]		F(Fine)、N(Normal)

記録画素数	静止画	3648×2736、3648×2432、3264 ×2448、2736 ×2736、2592×1944、2048×1536、1280×960、640×480
	動画	640×480、320×240
	文字	3648×2736、2048×1536
記録媒体		SDメモリーカード、SDHCメモリーカード（16GBまで）、内蔵メモリー（約54MB）
記録データ容量	3648×2736	N：約2097KB／画面、F：約3591KB／画面
	3648×2432	F：約2777KB／画面
	2736×2736	F：約2594KB／画面
	3264×2448	N：約1647KB／画面
	2592×1944	N：約1052KB／画面
	2048×1536	N：約649KB／画面
	1280×960	N：約340KB／画面
	640×480	N：約89KB／画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG（Exif ver2.21）*2
	動画	AVI（Open DML Motion JPEGフォーマット準拠）
	圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠（静止画、動画）
その他主要撮影機能		連写／S連写／M連写、セルフタイマー（作動時間：約10秒／約2秒／カスタムセルフ）、インターバルタイマー（撮影間隔：5秒～3時間、5秒単位）*3、カラーブラケット、最小絞り固定、AE/AFターゲット移動、デュアルサイズ記録、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、電子水準器
その他主要再生機能		一覧表示、拡大表示（拡大倍率最大16倍）、画像サイズ変更、レベル補正、ホワイトバランス補正、トリミング、画像クリップ
外部インターフェース		USB2.0（High-Speed USB）Mini-B、マスストレージ対応*4、AV OUT 1.0Vp-p（75Ω）
ビデオ信号方式		NTSC、PAL切替え
電源		リチャージャブルバッテリー（DB-70）：3.6V
		ACアダプター（AC-4g　オプション）：3.8V
電池寿命*5		CIPA規格準拠　DB-70使用時：約300枚 （[画像モニター節電］が［ON］のとき*6）
外形・寸法		102.0mm（幅）×58.3mm（高さ）×26.1mm（奥行き）（突起部含まず）
質量		本体約168g（バッテリー／SDメモリーカード／ストラップを除く） 付属品約23g（バッテリー／ストラップ）
三脚ネジ穴形状		1/4-20UNC
デート保持時間		約1週間
使用温度範囲		0℃～40℃
使用湿度範囲		85%以下
保存温度範囲		–20℃～60℃

*1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
*2 DCF準拠、DPOF対応。DCFはJEITAで標準化された「Design rule for Camera File system」の略称です。（機器間の完全な互換性を保証するものではありません）
*3 フラッシュ OFF時
*4 マスストレージは、Windows Me, 2000, XP, Vista, Mac OS9.0～9.2.2, Mac OS X 10.1.2～10.5.2に対応しています。
*5 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なり、目安となります。
*6 ［画像モニター節電］が［OFF］の場合は、約270枚となります。

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質・サイズ	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB
静止画	F3648（10M）	14	247	503	989	2022	4126
	N3648（10M）	24	431	878	1724	3524	7191
	F3:2（9M）	16	278	563	1107	2263	4618
	F1:1（7M）	19	330	668	1311	2681	5471
	N3264（8M）	30	534	1078	2117	4327	8831
	N2592（5M）	48	839	1707	3352	6852	13983
	N2048（3M）	74	1313	2671	5246	10724	21884
	N1280（1M）	133	2323	4726	9282	18973	38717
	N640（VGA）	497	8632	15359	30159	61643	125792
文字	3648×2736	24	431	878	1724	3524	7191
	2048×1536	74	1313	2671	5246	10724	21884
動画	640×480（15コマ／秒）	1分22秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒	394分53秒
	640×480（30コマ／秒）	41秒	11分59秒	24分23秒	50分10秒	97分55秒	199分49秒
	320×240（15コマ／秒）	2分40秒	46分19秒	94分11秒	193分41秒	378分2秒	771分25秒
	320×240（30コマ／秒）	1分22秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒	394分53秒

メモ

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間目安です。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

初期値／電源オフで初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。
次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
撮影	画質・サイズ	○	N3648 (10M)
	フォーカス	○	マルチAF
	測光	○	マルチ
	連写	×	OFF
	画像設定	○	普通
	フラッシュ調光補正	○	0.0
	オートブラケット	○	OFF
	長時間露光	○	OFF
	デュアルサイズ記録	○	OFF
	カスタムセルフ	○	撮影枚数：2枚、 撮影間隔：5秒
	最小絞り固定	×	OFF
	インターバル撮影	×	0秒
	手ブレ補正	○	ON
	スローシャッター速度制限	○	OFF
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	AUTO
	ISO感度	○	AUTO
	マクロ	○	マクロ　オフ
	フラッシュ	○	AUTO
	セルフタイマー	×	セルフ　オフ
	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	3648 (10M)
	動画サイズ	○	640
	フレームレート	○	30コマ／秒
再生	音量	○	−

設定値の保持：○　　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
セットアップ	画像モニター輝度調節	○	ー
	マイセッティング登録	○	ー
	ステップズーム	○	OFF
	Fnボタン設定	○	ターゲット移動
	ISO AUTO-HI 設定	○	AUTO 400
	サブファイルサイズ	○	320[QVGA]
	操作音	○	すべて
	操作音音量設定	○	■■□（中）
	画像確認時間	○	0.5秒
	デジタルズーム切替	○	通常
	ADJ.ボタン設定1	○	露出補正
	ADJ.ボタン設定2	○	ホワイトバランス
	ADJ.ボタン設定3	○	ISO
	ADJ.ボタン設定4	○	画質
	水準器設定	○	表示のみ
	AF補助光	○	ON
	オートパワーオフ	○	1分
	画像モニター節電	○	ON
	マクロ最短撮影距離	○	表示
	縦横自動回転再生	○	ON
	カード連続NO.	○	OFF
	日時設定	○	ー
	Language／言語	○	(*1)
	ビデオ方式	○	(*1)

(*1) 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

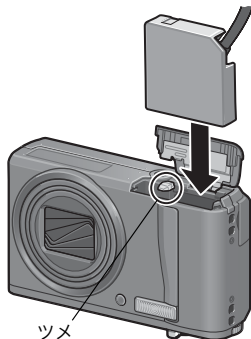
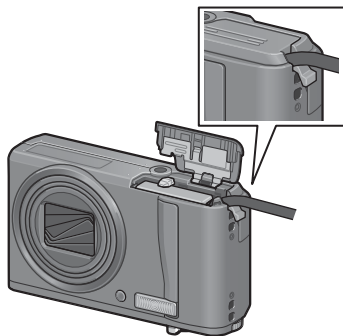
ACアダプターについて（別売り品）

動画撮影やインターバル撮影をする際、画像を見る際などカメラを長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、別売りのACアダプターを使うことをお勧めします。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 バッテリー／カードカバーをスライドさせて開ける

3 ACアダプターを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。

4 電源（DC入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す

5 バッテリー／カードカバーを閉じる

6 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- 電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターをご使用の場合、[電池マーク]表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- ACアダプターの使用中は、ACアダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

ACアダプターを取り出すには

ACアダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く
2. ACアダプターを取り出す
3. バッテリー／カードカバーを閉じる

海外でお使いのときは

ACアダプター（型名：AC-4g）、バッテリーチャージャー（型名：BJ-7）について

交流100〜240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証書について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。付属のAVケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。結露が発生した場合は、カメラから電池とメモリーカードを取り出し、水滴が消えるまで待ってから使用してください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。
- カメラを濡らさないでください。また、濡れた手でカメラを操作しないでください。故障や感電の原因となります。

結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナーを、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。

  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池やACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
   ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧等による故障。
   ④ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障。
   ⑤ 浸（冠）水、飲物（ジュース、酒類等）かぶり、砂（泥）入り、衝撃、落下、圧力等による自然故障以外の故障。
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
7. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   ＊ 以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
   ＊ 以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。
9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。

- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
- 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
- 修理にお出しになった場合、メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

索引

記号・英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

＊本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第2項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

＊各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

＊本サービスは、日本国内のみ有効です。

修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。
http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

●たくはいサービス●

着払い宅配便にてお送りいただくサービスです。

●ひきとりサービス●

運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。ひきとり料金（2000円）がかかりますので、予めご了承ください。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10：00～20：00までの間で、時間帯区切りは2時間です。
1)10：00～12：00　2)12：00～14：00　3)14：00～16：00
4)16：00～18：00　5)18：00～20：00
＊リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

●持ち込み修理について●

お買い上げのご販売店、カメラサービスセンター（裏表紙）のいずれかにお持ちいただいた場合も、修理の受付を行います。

お願い

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理個所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障個所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談は巻末に記載のリコーお客様相談センターまでお願い申し上げます。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。
デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

困ったときには

本書の「お困りのときは」(☞P.197)をご覧ください。問題が解決しないときには、「リコーお客様相談センター」にご連絡ください。

リコーお客様相談センター	
	電話0120-000475　　FAX 0120-479417 受付時間：9:00～18:00（土、日、祝日を除く） ※なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音させていただいております。
インターネットでもサポート情報をご提供しています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/	
デジタルカメラ修理受付	
リコー修理受付センター （リコーテクノシステムズ株式会社）	電話0120-053956 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く） 宅配便を利用した修理品の受付センターです。
リコー銀座カメラサービスセンター ※持ち込み修理の受付です。	〒104-0061東京都中央区銀座6-14-7（第3リコービル） 電話03-3543-4187 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
デジタルカメラサービスセンター （リコーテクノシステムズ株式会社） ※持ち込み修理の受付です。	〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1 （新横浜ファーストビル3階） 電話045-474-2586 受付時間：9:30～18:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/	
Irodio Photo & Video Studioについて	
株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター	電話06-6633-3900 受付時間：月曜日～日曜日10:00～17:00 （年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）

株式会社リコー
〒104-8222
東京都中央区銀座8-13-1リコービル
電話：0120-000475（フリーダイヤル）
2008年9月

JA　Printed in China